

平成 28 年度

年 報

ANNUAL REPORT

VOL.21



島根大学産学連携センター

— 松江地区 —

Collaboration Center, Shimane University

本年報について

本年報は、主に、平成 28 年度における島根大学産学連携センター松江地区に関する活動についてまとめたものです。

**島根大学産学連携センター（松江地区）
平成28年度年報目次**

1	産学連携センターの紹介	1
1-1	構成.....	2
1-2	スタッフ一覧.....	3
2	産学連携センター（松江地区）の産学連携活動	5
2-1	主催事業.....	6
2-1-1	学生による研究発表会&産学交流会.....	6
2-1-2	材料分野・ライフサイエンス分野新技術説明会.....	9
2-1-3	平成28年度しまね地域MOTセミナー初級編・中級編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」.....	13
2-1-4	平成28年度島根大学知的財産セミナー.....	15
2-2	共催事業.....	17
2-2-1	産学連携学会 関西・四国支部 第8回研究・事例発表会.....	17
2-2-2	平成28年度しまね地域MOTセミナー西部編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」.....	18
2-3	イベント等での研究シーズ発信.....	19
2-3-1	イノベーション・ジャパン2016.....	19
2-3-2	出雲産業フェア2016.....	20
2-3-3	先進環境対応車に係る技術シーズ発信会.....	21
2-3-4	アグリビジネス創出フェア2016.....	22
2-4	他機関との連携促進・技術動向に関する情報収集活動.....	23
2-4-1	日本知財学会 第7回定例研究会（知財制度・判例分科会）.....	23
2-4-2	平成28年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議.....	23
2-4-3	日本知財学会 知財制度・判例分科会 第15回判例研究会・第16回判例研究会.....	24
2-4-4	航空機産業ビジネスセミナー.....	24
2-4-5	産学連携学会 第14回大会.....	25
2-4-6	平成28年度一般社団法人島根発明協会定時総会記念講演.....	25
2-4-7	島根県ヘルスケア産業推進協議会 平成28年度第1回分科会.....	26
2-4-8	平成28年度 第1回島根県よろず支援拠点・島根県知財総合支援窓口連絡会議.....	26
2-4-9	日本知財学会 知財会計・経営分科会 第35回サロン.....	26
2-4-10	平成28年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議.....	27
2-4-11	中国地域産学官コラボレーション会議 第15回全体会議.....	27
2-4-12	地域イノベーション創出2016 in おかやま.....	28
2-4-13	鳥取県版産から学へのプレゼンテーションの事業説明.....	28
2-4-14	文部科学省シンポジウム「産学官による未来創造対話2016」.....	29

2-4-15	日仏国際フォーラム「Innovation Beyond Technique」	29
2-4-16	第29回国立大学法人共同研究センター等教員会議	30
2-4-17	徳島県自治研修センター講義「科学技術を活用した地方創生」	31
2-4-18	平成28年度第5回さんさんコンソコーディネイター会議	31
2-4-19	平成28年度産から学へのプレゼンテーション in 広島	31
2-4-20	第28回国立大学法人共同研究センター長等会議	32
2-4-21	公益財団ちゅうごく産業創造センター表敬訪問	33
2-4-22	福島県議会 地方創生・産業振興対策特別委員会 島根県視察	33
2-4-23	大企業ニーズ提示型ビジネスマッチング ニーズ説明会	33
2-4-24	平成28年度産学官連携リスクマネジメントモデル事業（技術流出防止マネジメント）実務者研修会	34
2-4-25	日本知財学会 知財制度・判例分科会 第21回判例研究会・第22回判例研究会	34
2-4-26	島根大学生物資源科学部セミナーin広島2016	34
2-4-27	しまね大交流会2016	35
2-4-28	大学トップマネジメント研修公開セミナー「地域イノベーションと大学の役割」	36
2-4-29	平成28年度基礎・教養コース「いけるよ！徳島経済講座」『スポーツツーリズムの推進にむけて～航空の第三需要を掘り起こし、交流人口の拡大を目指す～』	36
2-4-30	産学連携学会 平成28年度シンポジウム「オープン・イノベーションで切り拓く革新的新事業創出～今、大学の産学連携はHowからWhatへ」	37
2-4-31	島根大学と松江市内陸工業団地企業との情報・意見交換会	38
2-4-32	松江市における特産農産物の生産とその活用について	38
2-4-33	文部科学省シンポジウム「未来創造対話 in 大阪2017～産学連携の深化によるイノベーション促進に向けて～」	39
2-4-34	JST オープンイノベーションフェア WEST2017 ～関西発 大学技術シーズ見本市～	39
2-4-35	平成28年度大学-JST 意見交換会	40
2-4-36	平成28年度産学官連携リスクマネジメントモデル事業 利益相反マネジメント 報告会及び実務者研修会	40
2-4-37	本格的な産学官共同研究をすすめるための地域フォーラム	41
2-4-38	「やさしい医工連携」成果発表・拡大交流会	41
2-4-39	平成28年度 しまだいCOC・オールしまねCOC+ 事業成果報告会	41
2-4-40	国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議	42
2-4-41	産学金官情報交換会	42
2-4-42	平成28年度新産業創出研究会 定例会議	43

2-5	各種外部委員活動等	45
-----	-----------	----

2-6	産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択	46
-----	---------------------------	----

2-6-1	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター 平成28年度新産業創出研究会	46
2-6-2	島根県 平成28年度技術シーズ連携研究開発支援事業・技術シーズ育成支援事業	46

2-7	広報活動	47
-----	------	----

2-7-1	島根大学研究シーズ集 追加作成	47
2-7-2	メール配信	47

3	平成28年度科学技術相談（松江地区の担当分）	49
4	平成28年度共同研究	51
5	知的財産（特許）	53
	[特許出願件数・特許登録件数]	54
	[公開特許一覧]	54
	[J-STORE, 開放特許情報データベース登録件数]	59
6	平成28年度産学連携センターに関係した記事	61
7	産学連携センター地域産業共同研究部門 研究設備の紹介	63
	[原子間力／磁気力顕微鏡]	64
	[走査型電子顕微鏡]	64

1-1 構成

「産学連携センター」は、島根大学における産学連携活動の中核を担っており、企業からの科学技術相談や共同研究などの企画・推進に加え、プロジェクト研究の企画・推進の強化や特許などの知的財産の創出・活用の推進を主な業務としています。

これらの活動を円滑に行うために、①「地域産業共同研究部門」、②「地域医学共同研究部門」、③「連携企画推進部門」、④「知的財産創活部門」の4部門があります。

各部門に部門長と専任教員を配置するとともに、産学官連携コーディネーターや客員教授など外部の専門家の協力を得て、産学連携活動を展開しています。特に、全国でも数少ない医学系に産学連携の専任教員を配置していること、そして、産学連携のリエゾン活動から知的財産の活用までの活動を一つの組織で推進していることが、大きな特色です。

【地域産業共同研究部門（松江地区）】

【地域医学共同研究部門（出雲地区）】

科学技術相談への対応や企業等との共同研究等の企画や推進を行っています。

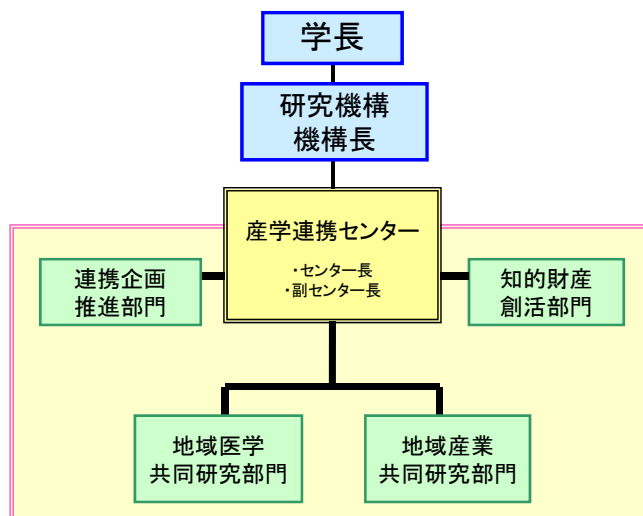
地域産業共同研究部門では、特に地域の産業界との共同研究を主眼において、また、地域医学共同研究部門では、特に地域の医学、医療、福祉に関する共同研究を主眼において活動しています。

【連携企画推進部門】

産学連携センターの各部門及び各学部との強固な連携の元に、大学の研究戦略や地域の産業振興戦略と歩調を合わせた、研究プロジェクトの企画・推進及び大型の外部研究資金の獲得に向けたリエゾン活動を展開しています。

【知的財産創活部門】

大学で創出される研究成果などの知的創造資産を、特許などの知的財産に結びつけ、社会での活用を促進しています。



島根大学における産学連携推進体制

1 産学連携センターの紹介 / スタッフ一覧

1-2 スタッフ一覧

職種	氏名 (所属)
センター長	大庭 卓也 (総合理工学研究科 教授)
副センター長	並河 徹 (医学部 教授)
産学官連携コーディネーター	芦矢 嘉郎 (島根県商工労働部産業振興課)

【地域産業共同研究部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	増永 二之 (生物資源科学部 教授)
産学連携マネージャー (共同研究担当)	北村 寿宏 (教授, 専任教員)

【地域医学共同研究部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	並河 徹 (医学部 教授)
産学連携マネージャー (共同研究担当)	中村 守彦 (教授, 専任教員)

【連携企画推進部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	大庭 卓也 (総合理工学研究科 教授)
産学連携マネージャー (連携企画担当)	服部 大輔 (准教授, 専任教員)

【知的財産創活部門】

職種	氏名 (所属)
部門長	山田 容士 (総合理工学研究科 教授)
産学連携マネージャー (知的財産担当)	阿久戸 敬治 (教授, 専任教員)

【支援スタッフ】

松江地区	上田 由美子, 岡 千亜妃, 林 由佳
出雲地区	山崎 享子, 野津 香織

【客員教授】

担当分野	氏名（現職等）
コーディネート活動 共同研究企画	吉野 勝美（島根県産業技術センター 所長）
コーディネート活動	金山 信幸（有限責任事業組合プラズマ技術研究開発センター 代表）
コーディネート活動	山崎 幸一（前：島根県産業技術センター 研究企画監）
コーディネート活動	伊藤 正和（和鋼博物館 館長）
コーディネート活動	大森 健一（東京工業大学 特別顧問）
広域コーディネート活動	小金 民造（K - a r i n 2 1 代表）
MOT 教育 起業支援	出川 通（株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役）
知的財産権関連	田辺 義博（田辺特許商標事務所 所長 弁理士）
知的財産権関連	中野 睦子（三枝国際特許事務所 弁理士）
コーディネート活動	楠田 和身（前：社団法人発明協会 広島支部）
コーディネート活動	山下 晃功（島根大学名誉教授）

2-1 主催事業

産学連携の第一歩として、研究成果を産業界の方々に知っていただくことが必要です。

当センターでは、このような目的から、産業界の方々向けに各教員の研究成果を紹介する場を企画し実施しています。

平成 28 年度に当センターが主催として、企画実施した事業を以下に紹介します。

2-1-1 学生による研究発表会&産学交流会

日時：平成 28 年 7 月 6 日(水)13:30~17:00

会場：島根大学総合理工学部 3 号館 2 階多目的ホール

主催：島根大学 産学連携センター，地域未来戦略センター，
総合理工学研究科附属産学官教育推進センター，
生物資源科学部地域連携室

松江工業高等専門学校 地域共同テクノセンター

共催：島根県，公益財団法人しまね産業振興財団

【概要】

日頃、企業の皆様から「大学ではどのような研究が行われているのかよく分からない」、「大学での研究は難しくてなかなか理解できない」などと言われることがあります。そこで昨年から、企業の皆さんに、本学の若い学生が日頃行っている研究を紹介し、参加者間で意見交換できるように「学生による研究発表会&産学交流会」を開催しています。今回の研究発表には松江高専の学生も参加しました。



当日は、学外から約 30 名が参加し、学内からも多数が参加して、活発な意見交換が行われました。学内参加者、発表者や主催関係者も含めると、合計で 102 名の参加となり、会場が狭く感じるほどでした。

まず、本学の学生 11 名と松江高専の学生 2 名が、日頃行っている研究について、それぞれ 3 分間のショートプレゼンテーションを行いました。

続いて、ポスターセッション形式で研究紹介のポスターの前で研究内容を詳しく説明し、発表者と来場者間の活発な意見交換が見られると共に、発表者間でも意見交換が行われ、異分野の交流も行うことができました。

ポスターセッションの終了後には、総合理工学部と生物資源科学部のそれぞれ 3 つの研究室（実験室）の見学をしていただきました。

今後も、学外の方々に研究を紹介し交流できるように、また、参加者間でも異分野交流ができるように継続して「学生による研究発表会&産学交流会」を行って行く予定です。

【学生発表者】

No	学部・氏名	テーマ
1	総合理工学研究科 田中祐貴	バーチャルリアリティによる筋力トレーニングの効率化
2	総合理工学研究科 蛭子本大悟郎	電気自動車における電力変換器の小型化・高効率化
3	総合理工学研究科 金森光太郎	デジタルホログラフィ(DH)の工業計測応用
4	総合理工学研究科 中堀泰史	高炭素鋼マルテンサイトに含まれる組織サイズとオーステナイト粒径の相関関係の解明
5	総合理工学研究科 井戸翔太	新規通電焼結法による熱電材料の組織・結晶配向制御
6	総合理工学部 河野祐輝	歯車装置の伝達誤差の理論解析及び実験に関する研究
7	総合理工学研究科 引野愛子	高濃度酸素供給装置を用いる布部ダムの窒素浄化
8	生物資源科学研究科 松浦有紀	木質チップを用いた省エネ型有機質汚泥処理技術の開発
9	生物資源科学研究科 宮田彩里	ツメガエル (<i>Xenopus laevis</i>) 枝芽の異所移植による新生枝芽形成の分子メカニズム
10	生物資源科学研究科 橋本 尚・本多 学	カキ果実における軟化・褐変現象に関する基礎的研究
11	生物資源科学研究科 高羽 優・三木志帆	ブドウの機能性成分に関する研究～機能性成分高含有品種の開発と成分蓄積機構の解明～
12	松江工業高等専門学校 松近拓哉	複合低エネルギー生体組織接合における生体温度の推定
13	松江工業高等専門学校 坂上拓磨	受動的走行能力を高めた柔軟全周囲クローラ

【紹介研究室】

No	研究室	テーマ
A	大庭・森戸研究室	島根大学総合理工学部大庭・森戸研究室の紹介
B	辻研究室	レーザーアブレーションによるナノ粒子の作製, 粒径制御
C	鈴木研究室	メタロミクスをベースにした島根県内の環境評価
D	板村・江角研究室	園芸作物の花芽～果実に着目した“生理機能”と“機能性成分”の研究

【研究室見学（総合理工学部コース）】

研究室	教員	概要
物質構造講座	大庭卓也 森戸茂一	電子顕微鏡およびX線回折装置を用いた材料組織局所結晶方位解析システムの見学。
高機能触媒研究室	小俣光司	高圧反応用触媒（環境浄化触媒，有機資源変換触媒）の活性試験ならびに分析を行っている部屋の見学。
光応用計測研究室	横田正幸	デジタルホログラフィによる工業計測システムの研究設備の見学。

【研究室見学（生物資源科学部コース）】

研究室	教員	概要
生物環境化学研究室	鈴木美成	トリプル四重極型誘導結合プラズマ質量分析装置を用いて，周期表上のほぼすべての元素を，網羅的に解析を行っている実験室の見学。
植物機能学研究室	板村裕之 江角智也	研究で用いる分析機器や廊下に掲示しているポスターをみていただくことで研究活動についての紹介。
植物病理学研究室	上野 誠	病害虫防除関連の研究を行っている実験室（病原菌や昆虫を培養している部屋）や昆虫標本室を紹介。



2-1-2 材料分野・ライフサイエンス分野 新技術説明会

日時：平成 28 年 7 月 14 日(木) 12:55～15:30

会場：科学技術振興機構（JST）東京本部別館 1 階ホール

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構，

国立大学法人鳥取大学，国立大学法人島根大学，

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター，島根県産業技術センター

後援：鳥取県，島根県，公益財団法人鳥取県産業振興機構，

公益財団法人しまね産業振興財団

協力：中国地域産学官連携コンソーシアム

【概要】

平成 28 年 7 月 14 日(木)に，東京・市ヶ谷の JST 別館 1 階ホールにておいて，「材料分野新技術説明会」および「ライフサイエンス分野新技術説明会」が開催されました。

新技術説明会は，大学や公設試験研究機関等から生まれた研究成果の実用化を促進するために開催される科学技術振興機構の事業です。

これまで，「山陰（鳥取・島根）発 新技術説明会」と題していましたが，今年度から分野名での開催となりました。

山陰地域の大学，公設試験研究機関が連携して開催するのは 10 回目となり，材料とライフサイエンスをテーマに，島根大学，鳥取大学，島根県産業技術センター，鳥取県産業技術センター，鳥取県から計 9 件の新技術の発表が行われました。

本学からは，総合理工学研究科の梶川靖友 教授による「ガラス基板上の多接合太陽電池を目指した Ge (111) 面上への GaAs 層形成方法」についての発表，同じく総合理工学研究科の葉 文昌 准教授による「シェブロン型レーザビーム走査による走査領域の局所単結晶化」についての発表が午前中の材料分野新技術説明会において行われました。

一方，産学連携センター 地域医学共同研究部門の中村守彦 教授による「誤飲したボタン電池等の金属異物を簡単に除去するマグネット鉗子」についての発表が午後からのライフサイエンス分野新技術説明会において行われました。

当日は，関東圏を中心に材料分野では 61 名，ライフサイエンス分野では 126 名，合計 187 名の参加者が集まり，山陰発の新技術に熱心に耳を傾けられていました。また，各発表の終了後には，会場外のポスターの前で名刺交換が行われ，民間企業等からの具体的な相談について，担当コーディネータも交えた協議が行われました。

今回発表された新技術 3 件について，具体的な連携につながるように，産学連携センターとして積極的にサポートをしていく予定です。



材料分野新技術説明会



ライフサイエンス分野新技術説明会

島根大学の技術シーズ発表

材料

ガラス基板上的多接合太陽電池を目指した Ge (111) 面上への GaAs 層形成方法
 総合理工学研究科 機械・電気電子工学領域 梶川靖友 教授

新技術の概要

ガラス基板上に (111) 配向した大粒径多結晶 Ge 膜を形成する技術を利用して、ガラス基板上に Ge と GaAs からなる多接合太陽電池



を作製できる可能性がある。しかし、Ge (111) 面上に直接 GaAs 層を形成すると、回転双晶が発生する。本発明は、Ge (111) 面上に回転双晶のない GaAs 層の形成法を提供する。

【従来技術・競合技術との比較】

単結晶 Ge (100) 基板上に Ge と GaAs からなる多接合太陽電池を作製する技術は実用化されている。一方、Ge (111) 面上に GaAs 層を直接形成すると回転双晶が発生することが知られている。本発明では、GaAs 層を形成する前に、GaSb 緩衝層を形成することで、回転双晶の発生を抑制した。

【新技術の特徴】

- ・ガラスの軟化温度以下での形成が可能
- ・回転双晶の発生がほぼ完全に抑制できた
- ・(111) 面上の成長なので、(100) 面上の成長で問題となったアンチフェーズ領域の発生はない

【想定される用途】

- ・ガラス基板上的多接合太陽電池
- ・高速な薄膜トランジスタ
- ・大面積 InGaAs 赤外検出器

島根大学の技術シーズ発表

材料

シェブロン型レーザービーム走査による走査領域の局所単結晶化

総合理工学研究科 機械・電気電子工学領域 葉 文昌 准教授

新技術の概要

考案した片側ダ
ブプリズムによ
りレーザーダイ
ードからの出力
を光利用効率
70%以上でシェ
ブロン字型ビー
ムに整形し、こ
のビームを半導



体膜上へ走査することにより単結晶化させる方法を提供する。

【従来技術・競合技術との比較】

従来の面照射エキシマレーザー結晶化法と違い、本研究では走査箇所だけを、単結晶化する事ができる為、プロセスコストは総照射面積に反比例することから桁違いに低くでき、また単結晶化できるために、デバイス均一性は向上し、更にキャリア移動度は約5倍大きくなる。

【新技術の特徴】

- ・広範囲な直径のシャフト固定に対応および水平・直立方向に固定が可能なこと
- ・軸合わせ機能は0.1deg/50mmの範囲に誰でも容易にセットできること
- ・位置合わせに必要な機能を組み合わせたシンプルな構造とし、軽量化と操作性の向上を図ったこと

【想定される用途】

- ・精密シャフトの輪郭形状測定時の位置合わせ用治具
- ・球状部品及び円筒状部品の観察時固定用治具
- ・丸物形状の3次元測定用の固定治具



島根大学の展示コーナー

島根大学の技術シーズ発表

医療
・
福祉

誤飲したボタン電池等の金属異物を簡単に除去するマグネット鉗子

産学連携センター 地域医学共同研究部門 中村守彦 教授

新技術の概要

ボタン電池など金属異物が長時間消化管内に停留すると壁穿孔を来し、場合によっては致死的状态となるため早急な回収を



必要とする。特に食後、胃内の金属異物を把持回収するのは極めて困難であるが、内視鏡マグネット把持鉗子により容易に回収できる。

【従来技術・競合技術との比較】

既存の鉗子の先端部位には磁力は無く、滑りやすい金属を把持するのは極めて困難であり、食後の胃内の金属異物を把持回収するのは至難の業である。本技術は、把持部位に磁性をもたせ、金属異物の除去を容易にする。さらに、把持損じた場合にやり直しできるように、帯磁性の線材を電磁式で開閉操作できる鉗子も考案した。

【新技術の特徴】

- ・ 金属の形態によらず把持回収が可能
- ・ 把持部位に永久磁石を利用
- ・ 電磁式による把持部開閉が可能

【想定される用途】

- ・ 既存の内視鏡に搭載して消化管内の金属異物を除去
- ・ マグネット鉗子単体で消化管内の金属異物を除去
- ・ 医療以外の工業用途（金属の遠隔把持）



大庭卓也 センター長による挨拶



名刺交換の様子

2-1-3 平成 28 年度しまね地域 MOT セミナー「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」

[初級編]

日時：平成 28 年 12 月 10 日(土)13:30～17:00

会場：東出雲町商工会館 会議室

主催：島根県、公益財団法人しまね産業振興財団、島根大学産学連携センター
松江市、東出雲町商工会

[中級編]

日時：平成 29 年 1 月 19(木)13:30～17:00, 20 日(金)9:00～16:30

会場：島根大学産学連携センター地域医学共同研究部門

主催：島根県、公益財団法人しまね産業振興財団、島根大学産学連携センター

後援：出雲市

【概要】

経済環境が厳しい今日、地域産業を活性化していくために、中小企業では、大企業などからの下請け型から、企画提案型への変革が必要とされています。しかし下請け型からの脱却には、顧客価値を把握して自分の仕事は自分で創り出すという取り組みが必要となります。

このような観点から、産学連携センターでは、島根県をはじめ島根県内の関連機関と連携して、中小企業が自社の経営資源を活かして独自製品や技術を開発し、事業として進めていくためのコツを学ぶ「しまね地域 MOT セミナー」を企画して平成 17 年度から毎年開催し、島根県での MOT の普及に努めています。

今年度も、株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役（島根大学産学連携センター 客員教授）の出川 通 氏を講師に迎えて開催しました。

初級編では、『開発した新製品を売れるようにするためには』～顧客と協業相手を選び、「顧客価値」を「必要技術」に「翻訳する」～をテーマとする講演と、地元の 2 社(菱農エンジニアリング株式会社 小松原 浩 社長, 株式会社曾田鐵工 曾田大輔 取締役) から取組み事例を紹介していただきました。

その後、パネル討論形式で会場との質疑応答を行い、マーケティングの実際、お客さんとの連携の苦労など、生の声を伺うことができました。

島根県東部だけでなく西部の企業の方々など約 20 名の参加があり、盛況でした。



出川 通 氏による講演



(右側) コメンテーター 出川 通 氏
(左側) 司会 北村寿宏 教授



株式会社曾田鐵工



菱農エンジニアリング株式会社

中級編では、MOT のマーケティングを中心に、座学に加えて自らのテーマについて演習を行い、その結果を参加者間で発表し議論を行うグループ討議を組み合わせて行いました。参加者は14名で、制御機器、電子部品、電気機器製造、大学など様々な業種の方が参加されました。参加者のエリアは、出雲市を中心に松江市からも参加がありました。

参加した皆さんは、熱心に講師の話の聞くと共に、グループ討議（演習）では各自が持ち寄った課題について活発な議論が行われ、会場が熱気に包まれるほどでした。

自ら想定する新製品で顧客や顧客価値をどのように整理して行くかなどの演習とグループ討議を行うことで、MOT やマーケティングについての理解を深められました。また、参加者間の交流が活発に行われ、自然に異業種交流となりました。



出川 通 氏による講義



グループ討議（演習）



グループ発表



グループ発表

今後もこのようなセミナーを継続し、MOT の普及に務めて行きたいと考えています。また、MOT が活かされ、地域での新事業やイノベーションの創出につながって行くことを期待しています。

2-1-4 平成 28 年度島根大学知的財産セミナー

日時：平成 29 年 3 月 2 日(木)14:00～15:30

会場：島根大学 総合理工学部 1 号館 1 階 11 講義室(1-104)

主催：島根大学産学連携センター

【概要】

島根大学医学部・附属病院では先進医療を実践し、再生医療をはじめとする先端研究を進めています。医学研究には高度なイメージがあり、医療機器開発は大手企業が行うもので、中小企業には無理だという固定観念があるようです。また、島根県の企業のうち、中小企業が 99.9%（そのうち小企業 86.6%）を占める現状から、県内での医工連携は極めて困難だと思うのは当然かもしれません。しかし、頭を切り替えて発想を転換すれば、医学とは無関係に思える他分野との融合等により、不利な環境も一転して好条件となります。

今回のセミナーでは、産学連携活動の一環として、自身も特許申請・取得して商品（医療品）の共同開発に多く携わっている当センターの中村守彦 教授が、「島根大学の知的財産活用による地域イノベーションへ向けて－医学と他分野の接点・融合と知財活用術－」をテーマに、知的財産活用の実践を紹介し、学内と学外から計 17 名の参加がありました。

内容
(1)はじめに
(2)地元中小企業が主役！
(3)特許を活用した医療品開発は誰にもチャンスあり！
(4)ニーズとシーズの逆転戦略～必ず売れる商品開発の秘策とは？
(5)特許を活用した島根大学の医工連携事例（10 テーマ）
(6)商標を活用した島根大学の医工農連携事例（2 テーマ）
(7)加減乗除と発明～常識は疑え！
(8)科学技術相談の最年少記録～島根の未来
(9)紙と鉛筆でイノベーション～省エネ発想法
(10)医療デザインのススメ
(11)神々の國・出雲で知財が結ぶ産学共同研究の『ご縁』
(12)知的財産教育～高校生，大学生が開発機器をワクワク体験
(13)将来展望～島根から世界へ

2-2 共催事業

産学連携を促進するためには、研究紹介をすると共に、学内の教員と産業界の方々が知り合う機会も非常に重要です。

当センターでは、このような機会をできるだけ多く設けるため、関連する機関と連携し、様々な事業を進めています。

平成 28 年度に共催した事業について以下に紹介します。

2-2-1 産学連携学会 関西・中四国支部 第 8 回研究・事例発表会

日時：平成 28 年 11 月 28 日(月)13:00～17:20, 29 日(火)9:30～12:00

会場：米子コンベンションセンタービッグシップ

主催：産学連携学会 関西・中四国支部

共催：鳥取大学産学・地域連携推進機構，島根大学産学連携センター

【概要】

産学連携学会 関西・中四国支部 研究・事例発表会は、地域が共有する課題を解決し、産学連携の促進に向けて産学連携の事例や研究成果について情報交換を行い、かつ、地域内の会員の交流を深めるために、当該エリアの方々が気軽に産学連携の事例の紹介や様々な研究の発表ができるように企画されたものです。



今回の発表会では、23 件の事例や研究紹介が行われました。参加者は 42 名で、支部エリア内だけでなく、北海道、山形、富山からの参加もあり、関心の深さが伺われました。各発表での質疑は非常に活発で、参加者の情報交換や交流が促進されました。

当センターからは、北村寿宏 教授、中村守彦 教授、服部大輔 准教授、小金民造 客員教授が参加しました。

中村教授は、「島根県・出雲市における産学官による「やさしい医工連携」の推進」と題して、現在、当センターの地域医学共同研究部門が中心となって進めている医工連携について紹介しました。

服部准教授は、「航空交通を活用した産学官民連携による地方創生への取り組み」と題して、徳島阿波おどり空港における連携事例について報告しました。

北村教授は、共催機関として、発表会、情報交換会の準備、運営に全面的に協力しました。

1 日目の発表会の後には情報交換会があり、発表会では足らなかった議論の続きが行われました。

2-2-2 しまね MOT セミナー西部編「顧客価値と地域シーズから展開する新商品・事業開発手法」

日時：平成 28 年 10 月 26 日(水)9:30～16:30

会場：島根県立大学 コンベンションホール

主催：公益財団法人しまね産業振興財団，島根県

共催：島根県立大学，島根大学産学連携センター

【概要】

当センターでは、初めて島根県立大学と連携して、MOT セミナーを開催しました。

まず『『経営者・技術者が開発した新製品がなぜ売れないのか』～ビジネス全体を俯瞰し「顧客価値」を「必要技術」に「翻訳する」～』をテーマに、株式会社テクノ・インテグレーション 代表取締役(島根大学産学連携センター 客員教授)の出川 通 氏に講演していただきました。

続いて、島根県立大学の学生から「地元の食を再考する「まち弁」企画」を、地元の2社(株式会社しちだ教育研究所 牛尾巧 氏，株式会社オーサン 島大義仁 氏)から取り組んでいる事例を、それぞれ紹介していただきました。

最後に、「まち弁」(お弁当+地元食材)を本格的な事業として展開するにはどのようにすれば良いかを題材とするグループ討議とその成果を発表していただきました。このような議論を通じて、MOT の理解を深めていただきました。

浜田市や江津市など島根県西部部の企業や学生の方々を中心に約 40 名の参加があり、盛況でした。



2-3 イベント等での研究シーズ発信

産学連携の促進のために、全国で様々なイベントなどが行われています。

当センターでは、本学の研究成果や研究シーズを紹介する目的で、様々なイベントなどに参加しています。平成 28 年度に参加したイベントなどについて、以下に紹介します。

2-3-1 イノベーション・ジャパン 2016—大学見本市&ビジネスマッチング

日時：平成 28 年 8 月 25 日(木)9:00～17:30, 26 日(金)10:00～17:00

会場：東京ビックサイト 西 1 ホール

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構、

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

【概要】



大学と産業界が持つ技術シーズとニーズの発見・出会いを目的とした国内最大級のマッチングイベントである「イノベーション・ジャパン 2016—大学見本市&ビジネスマッチング」が、東京ビックサイトで開催されました。

今年は、情報通信、ライフサイエンス、医療、装置・デバイス、ナノテクノロジー、環境保全・浄化、低炭素・エネルギー、マテリアル・リサイクル、シニアライフ（高齢社会）、防災の計 10 分野から 500 件を超える大学などの研究最先端シーズが展示説明され、各大学の研究シーズや産学連携への取り組みの

一端を感じることができました。

島根大学からは、当センター地域医学共同研究部門の中村守彦 教授が「看護・介護の場面をやさしく照らすハンズフリーLED ライト」について出展し、産学連携での実用化成果を紹介しました。企業の方を中心に多くの関係者の方に興味を持っていただけ、PR できました。

他に当センターから、阿久戸敬治 教授、北村寿宏 教授、服部大輔 准教授、小金民造 客員教授が参加しました。

2-3-2 出雲産業フェア 2016

日時：平成 28 年 11 月 5 日(土)，6 日(日)10:00～16:00

会場：出雲ドーム

主催：出雲産業フェア実行委員会，NPO 法人 21 世紀出雲産業支援センター

後援：島根大学，ほか

【概要】

平成 28 年 11 月 5 日(土)，6 日(日)に，出雲産業フェア実行委員会と NPO 法人 21 世紀出雲産業支援センターの主催，島根大学等の後援で，出雲市矢野町の出雲ドームにおいて，「出雲産業フェア 2016」が開催されました。

このフェアは，「世界に羽ばたけ 出雲のものづくり！夢づくり！」をテーマに，地域の企業等の製品や技術などを一堂に集め，地元産業への理解を図り，企業間の相互のコミュニケーションを深める，さらには，大学等教育・試験研究機関の研究内容を紹介し産学連携の推進を図ることなどを目的にしています。

島根大学からは，5つのグループが出展し，研究内容や産学連携による事例を紹介しました。

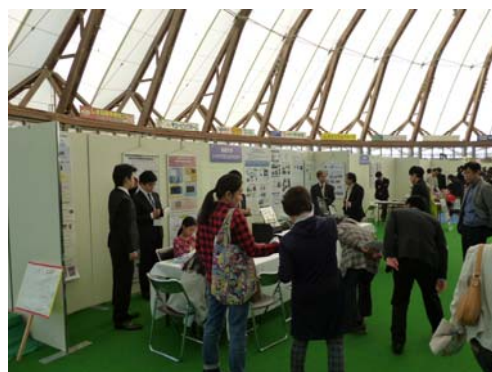
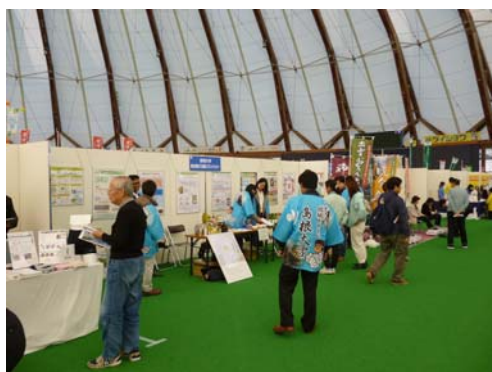
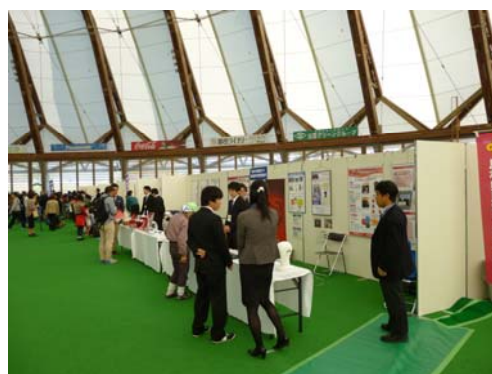
[8] 産学連携センター（松江地区）

[13] ナノテクプロジェクトセンター

[14] たたらナノテクプロジェクトセンター

[17] 産学連携センター（出雲地区）

[20] 農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター



2-3-3 先進環境対応車に係る技術シーズ発信会

日時：平成 28 年 11 月 18 日(金)10:00～17:00

会場：マツダ労働組合 ふれあい会館

主催：中国経済産業局，一般財団法人ひろぎん経済研究所

【概要】

マツダグループ向け「先進環境対応車に係る技術シーズ発信会」が開催され、島根大学からは計測解析技術分野に、総合理工学研究科の横田正幸 教授と生物資源科学部の鈴木美成 准教授の研究室が参加し、15 分間のプレゼンテーションを行うとともにパネル展示をしました。

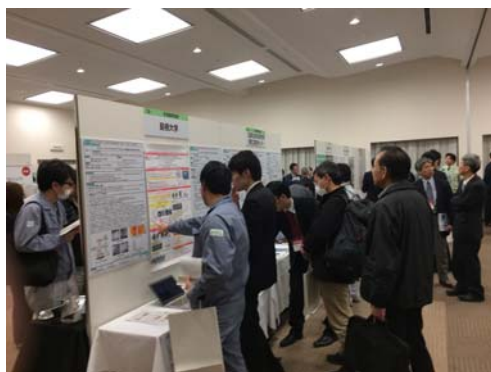
当センターからは服部大輔 准教授が参加しました。

横田教授の研究室は「低コヒーレンスデジタルホログラフィを用いた多層塗膜の乾燥・硬化解析法」について発表しました。

工業製品の塗装乾燥解析を非接触・定量的に行うことは新規塗料開発、製造工程の削減において重要な要素と考えられます。現在実用化されている手法では、有効な方法は無いのが実情です。横田研究室では、デジタルホログラフィ(DH)干渉法を応用した塗膜の乾燥・硬化解析法について研究し、その成果を企業共同開発により 2016 年 6 月キュアテストとして、世界で初めて実用化しています。自動車のボディーなど多くの工業製品では製品の耐久性向上ならびに美観の付与を目的として数 10 μm の膜厚で塗料を塗り重ねます。本研究では DH 干渉法を応用した低コヒーレンス DH による多層塗膜の乾燥解析を目的としています。

鈴木准教授の研究室は「大気中粒子状物質に含まれる重金属のリアルタイム計測」について発表しました。

近年、国内においても PM2.5 に対する関心が高まっています。中国による汚染という印象が強いが、国内にも発生源は存在し、その候補の一つとして自動車が挙げられます。しかしながら、従来の環境分析のアプローチでは分析に必要なサンプル量を確保するための捕集時間が 1 日～1 カ月と長いため、詳細な発生源を明らかにすることができず、そのため、環境科学の面から自動車の改善点を提言することができませんでした。鈴木研究室が行っている“リアルタイム分析”は、数 10 ミリ秒～10 分間隔で大気中に含まれている金属濃度を測定できる技術です。この技術を用いることで、走行に伴い排出される金属や PM2.5 の排出過程を詳細に明らかにすることができます。この測定・解析結果より、環境負荷の低い自動車開発に有効な提言を行うことができます。



2-3-4 アグリビジネス創出フェア 2016

日時：平成 28 年 12 月 14 日（水）～16 日（金）10:00～17:00

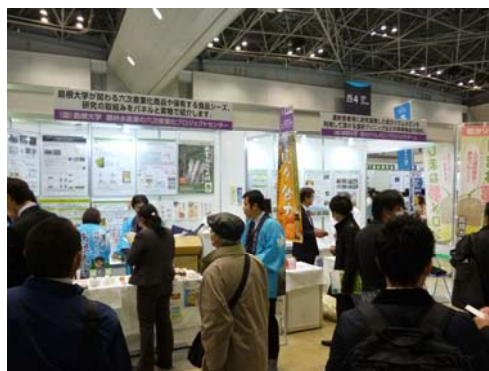
場所：東京ビッグサイト 西 4 ホール

主催：農林水産省

【概要】

平成28年12月14日（水）～16日（金）に、東京ビッグサイトで、アグリビジネス創出フェア2016が開催されました。

このフェアは、全国の産学の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術交流展示会」です。



本学からは、「農林水産の六次産業化プロジェクトセンター」と「低カリウムメロンプロジェクトチーム」が出展説明やプレゼンテーションを行い、これまで取り組んできた研究成果やその成果から実用化された柿ドリンク、低カリウムメロンなどについて紹介し、非常に多くの方が訪れ、関心を持っていただけました。

産学連携センターからは、北村寿宏 教授と小金民造 客員教授が参加し、研究シーズを紹介するとともに各大学の産学連携活動などの情報収集を行いました。

2-4 他機関との連携促進・技術動向に関する情報収集活動

産学連携を円滑に効果的に進めるためには、ネットワークが非常に重要です。

当センターでは、様々な機会を利用し、全国の大学とのネットワーク、産学連携従事者間のネットワーク、産学連携に携わっている各機関とのネットワークを構築し、つながりを深めるために研究会や学会、その他会議に参加しています。

平成 28 年度に行った連携活動について、以下に紹介します。

2-4-1 日本知財学会 第 7 回定例研究会（知財制度・判例分科会）

日時：平成 28 年 4 月 15 日(金)18:00～19:30

会場：東京理科大学 理窓会会議室

主催：日本知財学会 知財制度・判例分科会

【概要】

日本知財学会の第 7 回定例研究会が知財制度・判例分科会の担当で開催され、「知財判例の読み方～近年の重要判例を題材として～」をテーマに、弁護士・東海大学法科大学院の角田政芳 教授が講演されました。

当センターからは、阿久戸敬治 教授が、本学の知的財産戦略や知的財産創活部門の活動推進、ならびに、特許権等の侵害問題への対応に資すること等を狙いとして参加しました。

2-4-2 平成 28 年度中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議

日時：平成 28 年 5 月 20 日(金)14:00～17:00

会場：岡山大学本部棟 6 階第 1 会議室

【概要】

中国地域産学官連携コンソーシアムの平成 28 年度運営会議が開催され、本学から阿久戸敬治 教授が出席し、平成 27 年度事業の報告（外部評価委員会報告含む）、及び、平成 28 年度の事業計画等の協議と意見交換を行いました。

また、中国経済産業局より中国地域の産学官連携活動に関する紹介がありました。

2-4-3 日本知財学会 知財制度・判例分科会 第15回判例研究会・第16回判例研究会

日時：平成28年5月28日(土)17:00～20:30

会場：東京理科大学 理窓会会議室

主催：日本知財学会 知財制度・判例分科会

【概要】

日本知財学会 知財制度・判例分科会による第15回及び16回判例研究会が開催され、特許権等に関わる知財高裁判例2件（知財高判平成27年11月24日「回転角検出装置事件」、東京地判平成27年2月18日「FRAND宣言をした特許権に基づく侵害警告が不正競争防止法2条1項14号の『虚偽の事実の告知』に該当すると判断された事例」）の報告がありました。

当センターからは、阿久戸敬治 教授が、本学の知的財産戦略や知的財産創活部門の活動推進、ならびに、知的財産教育の高度化に資することを狙いとして、参加しました。

2-4-4 航空機産業ビジネスセミナー

日時：平成28年6月10日(金)14:00～17:00

会場：テクノアークしまね 4階 大会議室

主催：島根県

【概要】

世界的な航空機需要を背景に今後高い成長が期待される航空機産業分野をテーマとするビジネスセミナーが開催され、服部大輔 准教授が参加しました。

内容
講演Ⅰ：航空機産業と航空技術の動向と展望 東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 鈴木真二 教授
講演Ⅱ：中小連携による航空機エンジン部品の一貫生産の取組み 株式会社放電精密加工研究所 MPソリューション中部事業部 安藤洋平 取締役事業部長
報告：航空機産業振興について 経済産業省 中国経済産業局 地域経済部 宅見幸一 参事官

2-4-5 産学連携学会 第 14 回大会

日時：平成 28 年 6 月 16 日(木)～17 日(金)

会場：アクトシティー浜松

主催：産学連携学会

【概要】

産学連携学会の定期大会である第 14 回大会が開催され、北村寿宏 教授、中村守彦 教授、服部大輔 准教授、小金民造 客員教授が参加しました。

特別講演やシンポジウム、約 150 件の研究成果の一般講演やポスターセッションが行われ、350 名を超える参加者があり盛況でした。

北村教授は「連携分析 I」で、中村教授は「産学連携プロジェクト 5」でそれぞれ発表しました。

発表のなかで北村教授は、「地方大学における産学共同研究の実状解明の実証的研究 -10 島根大学における共同研究の相手先の地理的分布～島根、新潟、長崎、愛媛大学における共同研究の相手先の地理的分布の比較～」と題して、科研費で進めている国立大学における共同研究の実情調査の結果について報告しました。



2-4-6 平成 28 年度一般社団法人島根発明協会定時総会記念講演

日時：平成 28 年 6 月 27 日(月)13:00～14:30

会場：テクノアークしまね大会議室

主催：一般社団法人島根県発明協会

【概要】

一般社団法人発明協会では、創立 110 周年を記念して、戦後日本で成長を遂げわが国産業経済の発展に大きく寄与したイノベーション 100 件を選定する事業を実施しています。

今回、「戦後日本のイノベーション 100 選」をテーマに、発明協会の及川耕造 副会長・専務理事が講演をされ、北村寿宏 教授が聴講しました。

2-4-7 島根県ヘルスケア産業推進協議会 平成 28 年度第 1 回分科会

日時：平成 28 年 7 月 5 日(火)13:00～16:00

会場：くにびきメッセ 601 会議室

【概要】

島根県ヘルスケア産業推進協議会の平成 28 年度第 1 回分科会が開催され、保険外サービスへのビジネス参入についての講演や、平成 29 年 4 月設置予定の本学人間科学部紹介がありました。

当センターからは、大庭卓也 センター長、北村寿宏 教授、服部大輔 准教授が参加しました。

2-4-8 平成 28 年度 第 1 回島根県よろず支援拠点・島根県知財総合支援窓口連絡会議

日時：平成 28 年 7 月 8 日(金)14:00～17:15

会場：サンラポーむらくも 2 階 瑞雲の間

【概要】

島根県の支援機関である、島根県よろず支援拠点と島根県知財総合支援窓口の連絡会議が行われ、本学から当センターの阿久戸敬治 教授が出席しました。

それぞれの支援機関における活動報告や、講演（「“地” 的経営のすすめと支援機関の役割」関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授・兵庫県立大学 名誉教授 佐竹隆幸 氏）がありました。

2-4-9 日本知財学会 知財会計・経営分科会 第 35 回サロン

日時：平成 28 年 7 月 15 日(金)18:00～20:30

会場：青山学院大学 青山キャンパス 15 号館 15309 教室

主催：日本知財学会 知財会計・経営分科会

【概要】

日本知財学会 知財会計・経営分科会の第 35 回サロンが、「知財の伝承と拡散のマネジメント」をテーマに開催され、当センターからは阿久戸敬治 教授が、本学の知的財産戦略や活動推進に寄与すること等を狙いとして参加しました。

2-4-10 平成 28 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議

日時：平成 28 年 7 月 15 日(金)14:00～17:50

会場：鳥取大学広報センター2 階スペース C

【概要】

平成 28 年度中国・四国地区国立大学法人地域共同研究センター等センター長会議が鳥取大学の当番で開催され、当センターから大庭卓也 センター長と服部大輔 准教が出席しました。

この会議において、特に第 1 部では、「本格的な産学連携による共同研究の拡大に向けた費用負担等のあり方」について議論がなされ、その後、第 3 部でも、「地域連携を担う組織体制」、「地域社会の発展に貢献する人材育成」、「地域企業の活性化と大学の役割（※島根大学提案）」について議論が交わされると共に、情報交換が行われました。

2-4-11 中国地域産学官コラボレーション会議 第 15 回全体会議

日時：平成 28 年 7 月 22 日(金)10:00～13:45

会場：岡山コンベンションセンター 302 会議室

【概要】

中国地方の産、学、金、官のメンバー88 機関が集まり、「中国地域産学官コラボレーション会議」が開催され、北村寿宏教授が出席しました。この会議は、中国地方 5 県の産・学・金・官の連携を促進し、地域イノベーションの創出などを進めていくことを目的として、活動を行っています。

今回の定例会議では、平成 27 年度の活動報告、主要活動の事例紹介が行われ、次期の活動方針について審議し承認されました。今後は、「ちゅうごく地域の輝かしい未来に向かって、さらに連携を進化（深化）させよう」をスローガンに、連携グループの強化・広域化、共用化と交流の促進、発進力の強化の 3 つの行動指針に従い、活動を行っていくことになりました。

2-4-12 地域イノベーション創出 2016 in おかやま

日時：平成 28 年 7 月 22 日(金)14:00～17:50

会場：岡山コンベンションセンター3 階コンベンションホール

【概要】

中国地域産学官コラボレーションシンポジウム「地域イノベーション創出 2016 in おかやま」に、北村寿宏 教授が参加しました。

このシンポジウムでは、東北大学の堀切川一男 教授が「地域産学官連携の秘訣」と題して、基調講演をされました。堀切川教授は、山形や仙台、福島などで「御用聞き型企業訪問」などの活動を熱心に展開し、地域の中小企業との連携による新製品の事業化を数多く成功に導かれました。それらの活動を紹介される中で、地域で元気な企業を的確に発掘し、課題抽出・問題設定・問題解決を的確に行い、ミニマム目標の設定による高い製品化達成率が重要であることを指摘されました。

続いて、産学官連携・イノベーション創出の取組紹介では、岡山大学の尾本哲朗 教授が「岡山大学の産学連携の取組みについて」と題して、また、香川大学の永富太一 准教授が「予測不能な文系領域の産学官連携プロジェクト」と題して、それぞれの大学での産学連携の取り組みを紹介されました。

その後、パネルディスカッションが行われ、地域における産学連携とイノベーションについて議論が交わされました。

2-4-13 鳥取県版産から学へのプレゼンテーションの事業説明

日時：平成 28 年 8 月 3 日(水)

会場：鳥根大学産学連携センター（松江地区）

【概要】

公益財団法人鳥取県産業振興機構 特許流通コーディネーターの西村隆之 氏が来訪され、鳥取県版産から学へのプレゼンテーションについて、大庭卓也センター長と北村寿宏 教授が説明を受けました。

協議の結果、後日、参加出来ない旨を返事しました。

2-4-14 文部科学省シンポジウム「産学官による未来創造対話 2016」

日時：平成 28 年 8 月 25 日(木)13:00～17:00

会場：東京ビックサイト レセプションホールA

【概要】

オープンイノベーションの場を大学に求める各種業界の経営者の幹部と産学パートナーシップの拡大を指向する全国の大学の学長・理事等が一堂に会し本格的な産学連携を推進すべく、「産学パートナーシップの拡大に向けた産学経営対話」が開催され、シンポジウムと展示イベントが行われました。

本学からは、当センターの北村寿宏 教授と、研究協力課の小村陽悦 アドバイザー、井原裕子 係長が参加しました。

「産学官による未来創造対話 2016」をテーマとするシンポジウムでは、本格的な産学連携による共同研究拡大に向けた費用負担のあり方、産学連携活動を通じた大学経営のあり方、産業界による基礎研究段階からの共同研究などへの積極的な参加を得るための具体的な取り組みなどについて、検討結果の報告や議論がなされました。本学においても、今後、共同研究の拡大に向けた産学連携活動や共同研究の費用負担のあり方などについて検討を行い、仕組みなどの整備が必要であると感じました。

2-4-15 日仏国際フォーラム「Innovation Beyond Technique」

日時：平成 28 年 9 月 12 日(月)14:00～17:30

会場：東京大学 弥生講堂一条ホール

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構，社会技術研究開発センター，他

【概要】

イノベーションと経済・社会等に関わる、日仏国際フォーラムが、「Innovation Beyond Technique」をテーマに開催されました。

当センターからは阿久戸敬治 教授が、本学の産学連携活動や知的財産創活部門の活動推進や知的財産戦略展開等の観点から、「科学・技術と社会－歴史的展望－」，「科学技術イノベーションと社会:リビング・コンセプトとしての Society5.0」，「HORIZON2020 における責任ある研究・イノベーション」に関わる基調講演，及び，ディスカッションに参加しました。

2-4-16 第 29 回国立大学法人共同研究センター等教員会議

日時：平成 28 年 9 月 15 日(木)13:00～17:30, 16 日(金)9:00～12:00

会場：ホテル日航奈良

【概要】

全国の国立大学に設置されている産学連携を担当している組織の教員が集まり、情報交換や意見交換を行う「国立大学法人共同研究センター等教員会議」に、当センターから北村寿宏 教授, 中村守彦 教授, 服部大輔 准教授が出席しました。



第 29 回となる今回は、奈良先端科学技術大学院大学の当番により二日間に亘っ

て開催され、全国から共同研究センター等の教員 55 名が集まり、様々な意見交換や議論が行われました。

一日目の全体会議では、文部科学省 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室の西島宗明 氏による「本格的な産学連携による共同研究拡大に向けた取組について」と題する基調講演があり、共同研究の大型化やその費用負担のあり方など、財源多様化検討会での報告内容を紹介されました。また、平成 29 年度の概算要求についても紹介されました。

その後、「科学技術イノベーション推進機能強化に向けた共同研究センター等のあり方」をテーマに三つの分科会（分科会 1：オープンイノベーションを推進する仕組みの強化, 分科会 2：国際的な知的財産の戦略的活用, 分科会 3：地方創生に資するイノベーションシステムの構築）がありました。

当センターの教員が参加した分科会 3 では、各大学の取り組みや学内での産学連携の担当部署の位置づけ, COC や COC+事業と産学連携部署との関係について、各大学の状況を紹介し、情報を共有しました。また、基調講演で取り上げられた、本格的な共同研究の推進や費用負担の問題などを中心に意見が交わされ、地方大学ではどこも対応はこれからで、今後、本学でも検討が必要であると思いました。

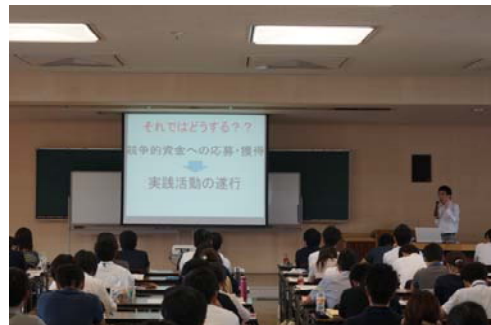
2-4-17 徳島県自治研修センター講義「科学技術を活用した地方創生」

日時：平成 28 年 9 月 26 日(月)

場所：徳島県自治研修センター

【概要】

平成 28 年 9 月 26 日に徳島県自治研修センターにおいて、服部大輔 准教授が、「科学技術を活用した地方創生」をテーマに、平成 28 年度徳島県庁新規採用者約 120 名に対し、2 時間にわたり講義を行いました。



2-4-18 平成 28 年度第 5 回さんさんコンソ コーディネーター会議

日時：平成 28 年 9 月 29 日(木)10:30～11:45

場所：メルパルク広島 5 階 桜

【概要】

平成 28 年度第 5 回さんさんコンソコーディネーター会議が開催され、当センターから服部大輔 准教授が出席しました。

この会議には、中四国における大学のコーディネーターなど 30 名が出席し、まず、さんさんコンソ事業の中間報告として平成 28 年山陰初(材料・ライフサイエンス分野)新技術説明会の成果報告や、11 月 1 日に開催されるさんさんコンソによる新技術説明会、外部評価委員からのコメント、メンバーによるアンケート結果などが紹介されました。その後、大阪ガスからのニーズ紹介、JST ナノテクプラットフォーム事業の紹介などがあり閉会しました。

2-4-19 平成 28 年度産から学へのプレゼンテーション in 広島

日時：平成 28 年 9 月 29 日(木)13:00～16:30

場所：メルパルク広島 5 階 桜

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構、中国地域産学官連携コンソーシアム

【概要】

科学技術振興機構及び中国地域産学官連携コンソーシアムの主催で、「平成 28 年度産から学へのプレゼンテーション in 広島」が開催され、当センターから服部大輔 准教授が参加しました。

広島、岡山、東京における企業 5 社（マツダ株式会社、ダイヤ工業株式会社、株式会社村上農園、ヤンマー株式会社、株式会社フォレストバイオテック）から大学などのコーディネーターに向けて、ニーズの発表が有り、それぞれの発表後に名刺交換および個別相談が行われました。

2-4-20 第 28 回国立大学法人共同研究センター長等会議

日時：平成 28 年 9 月 29 日(木)14:00～19:30, 30 日(金)9:30～12:00

場所：福井県国際交流会館

【概要】

平成 28 年 9 月 29(木), 30 日(金)に福井県国際交流会館で開催された第 28 回国立大学法人共同研究センター長等会議に大庭卓也 センター長と北村寿宏 教授が出席しました。

この会議には、全国の国立大学法人に設置されている共同研究センター等のセンター長、専任教員、担当事務など約 160 名が出席しました。

一日目には、文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課の山下 洋 大学技術移転推進室長による基調講演があり、本格的な産学連携による共同研究の拡大に向けた費用負担等の在り方について紹介されました。

基調講演に続いて、今回の全体テーマである「科学技術イノベーション実現に資する本格的な産学官連携の在り方」について情報交換と議論が行われました。

セッション①では、「本格的な産学連携による共同研究の拡大に向けた費用負担等在り方について」をテーマに、先進事例として、名古屋大学や大阪大学から、組織対組織の大型の共同研究としての指定共同研究や、共同研究講座、協働研究所について、また、共同研究にかかる経費の算出の試みについて詳しい紹介がありました。

その後、九州大学、熊本大学、富山大学、宇都宮大学、名古屋工業大学から活動推進の糸口について紹介があり、パネル討論が行われました。

地方大学では、大型の共同研究の促進と地元中小企業との共同研究は、相反する状態になる可能性もあり、地域貢献の実現と共同研究の大型化については悩ましい状態にあることが浮き彫りにされました。

二日目には、地元企業からの後援として、福井経編興業株式会社の高木 義秀 代表取締役専務による講演があり、「衣料から医療へ『下町ロケット 2 “リアル” ガウディ計画』への挑戦」と題して、ニット製造業の技術を核にした医療材料への事業展開の取り組みについて紹介されました。

続いて、セッション②では、「人材、知資金の好循環システム構築」と題して、筑波大学、群馬大学、九州工業大学、京都工芸繊維大学、山形大学の 5 大学をパネラーとして、パネルディスカッションが行われ、産学連携に関する学金連携や社会人の人材育成などの取り組みについての紹介と議論が行われました。

2-4-21 公益財団ちゅうごく産業創造センター表敬訪問

日時：平成 28 年 10 月 11 日(火)13:10～13:40

場所：島根大学産学連携センター（松江地区）

【概要】

公益財団法人ちゅうごく産業創造センターの佐原一弘 専務理事と千葉治義 常務理が当センターを表敬訪問され、貴団体の活動報告並びに、貴団体の中で似た組織がある為、一緒に出来ないかを検討中である事等の説明があり、大庭卓也センター長が応対しました。

2-4-22 福島県議会 地方創生・産業振興対策特別委員会 島根県視察

日時：平成 28 年 10 月 18 日(火)13:00～15:00

場所：島根県庁

【概要】

福島県議会 地方創生・産業振興対策特別委員会の委員等 15 名が、再生可能エネルギー関連産業及び医療福祉機器産業の育成・集積やロボット関連産業の基盤構築などの新産業対策、さらに中小企業等の振興をはじめ農業の再生や農商工連携などの産業振興対策を調査の視点として来県され、大庭卓也センター長と北村寿宏 教授が、当センターにおける産学官連携の取り組みを紹介しました。

2-4-23 大企業ニーズ提示型ビジネスマッチング ニーズ説明会

日時：平成 28 年 10 月 20 日(木)14:00～16:30

場所：松江テルサ 4 階 大会議室

主催：株式会社ケイエスピー、公益財団法人しまね産業振興財団、
公益財団法人鳥取県産業振興機構

【概要】

平成 28 年 10 月 20 日（木）に松江テルサで、鳥取・島根県内の中小企業支援機関を対象に、首都圏の支援機関である株式会社ケイエスピーが実施している大企業や海外企業からのニーズ提示型ビジネスマッチング事業の概要とニーズの説明会が開催され、服部大輔 准教授が出席しました。

2-4-24 平成 28 年度産学官連携リスクマネジメント（技術流出防止マネジメント）実務者研修会

日時：平成 28 年 11 月 1 日（火）13:00～17:30, 2 日（水）9:00～12:00

場所：愛知県産業労働センター ウィンクあいち 12 階

主催：三重大学

【概要】

文部科学省による、平成 28 年度産学官連携リスクマネジメントモデル事業（技術流出防止マネジメント）の採択事業である「産学官連携リスクマネジメント（技術流出防止マネジメント）実務者研修会」が、三重大学の主催で開催されました。

この研修会は、大学における産学官連携の実務担当者が集まって、各大学の産学官連携リスクマネジメントに関する事例などの情報を共有するとともに、今後の具体的な取組みについて意見交換することが目的で、本学から、大庭卓也 センター長が参加しました。

2-4-25 日本知財学会 知財制度・判例分科会 第 21 回判例研究会・第 22 回判例研究会

日時：平成 28 年 11 月 19 日（土）17:00～20:30

会場：東京理科大学 理窓会会議室

主催：日本知財学会 知財制度・判例分科会

【概要】

日本知財学会 知財制度・判例分科会による第 21 回及び 22 回判例研究会が開催され、著作権や商標に関わる 2 件（東京地決平成 28 年 4 月 7 日「判例解説雑誌（保全異議申立事件）」、知財高判平成 28 年 3 月 31 日「インディアンモトサイクル事件」）の報告がありました。

当センターからは、阿久戸敬治 教授が、本学の知的財産戦略や知的財産創活部門の活動推進、ならびに、知的財産教育の高度化に資すること等を狙いとして、参加しました。

2-4-26 島根大学生物資源科学部セミナー in 広島 2016

日時：平成 28 年 12 月 3 日（土）13:00～16:00

会場：メルパルク広島

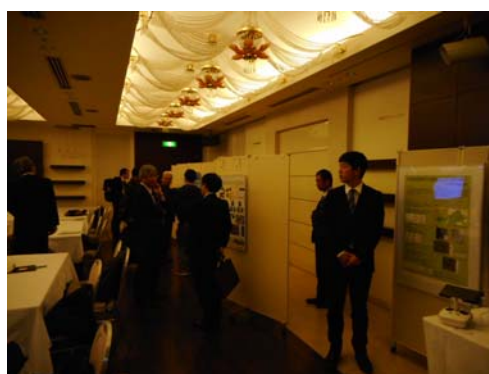
主催：島根大学生物資源科学部

【概要】

本学生物資源科学部によるセミナーが広島市で開催され、当センターから服部大輔 准教授と楠田和身 客員教授が参加しました。

当日は、生物資源学部を構成する全 4 学科（生物科学科、生命工学科、農林生産学科、地域環境科学科）から各 1 題目の講演がありました。

- ・(生物科学科)
「生物モニタリング調査最前線—環境 DNA 研究でできること/高原輝彦」
- ・(生命工学科)
「雲州人参成分由来乳酸菌代謝産物による病態発症予防・改善効果の検証へ向けて
/清水英寿」
- ・(農林生産学科)
「透析患者用低カリウムメロン（しまね夢メロン）の研究開発と生産利用について
/浅尾俊樹」
- ・(地域環境科学科)
「半透過型太陽電池を利用した温室自動遮光システムの開発/李 治, 松岡徹朗, 谷野 章」



2-4-27 しまね大交流会 2016

日時：平成 28 年 12 月 11 日(日)13:00～17:00

会場：くにびきメッセ 大展示場

主催：しまね大交流会 実行委員会，島根大学

【概要】

平成 27 年度文部科学省から採択を受けた「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の取り組みとして昨年から開催されている「しまね大交流会」に当センターも出展展示し、大庭卓也 センター長，中村守彦 教授，北村寿宏 教授，服部大輔 准教授が参加しました。

今年の大交流会では、約 1600 名の参加があり、その中で学生参加は約 700 名と、大盛況でした。

出展したブースでは、島根大学の産学連携活動や研究シーズの紹介を行いました。いつもの産学連携関係のイベントとは異なり、NPO や自治体、学生の参加があり、企業以外の方も産学連携に興味を持って頂いて質問を頂くとともに、多様な方々との交流ができました。

服部大輔 准教授は、大交流会の実行委員として初期の準備段階から携わるとともに、

当日は赤いハッピーを着て、地域未来戦略センターや他のボランティアのメンバーらと共に来場客を案内したり質問に答えたりするコンシェルジュとしても貢献しました。



2-4-28 大学トップマネジメント研修公開セミナー「地域イノベーションと大学の役割」

日時：平成 28 年 12 月 16 日(金)14:00～17:40

会場：政策研究大学院大学 1 階 1AB 会議室

主催：文部科学省，政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策研究センター

【概要】

政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策研究センターでは、科学技術イノベーションを推進する主体の一つである大学において、次世代リーダーを育成する「大学トップマネジメント研修」を、文部科学省の委託を受けて実施しています。

今回、「地域イノベーションと大学の役割」をテーマに公開セミナーが開催され、当センターから大庭卓也 センター長が参加しました。

2-4-29 平成 28 年度基礎・教養コース「いけるよ！徳島経済講座」『スポーツツーリズムの推進にむけて～航空の第三需要を掘り起こし、交流人口の拡大を目指す～』

日時：平成 29 年 1 月 16 日(月)9:25～16:45

会場：徳島県自治研修センター

主催：徳島県庁

【概要】

平成 29 年 1 月 16 日(月)に、徳島県が主催する、平成 28 年度基礎・教養コース「いけるよ！徳島経済講座」『スポーツツーリズムの推進にむけて～航空の第三需要を掘り起こし、交流人口の拡大を目指す～』で、当センターの服部大輔 准教授が講師を務めました。



服部准教授はTV会議システムを使い、島根県から徳島県の会場にいる参加者（県・

自治体職員および一般の方) に向けて、「航空分野における新規需要としてのスポーツツーリズム」というタイトルで講義を行いました。特に 1. スポーツを中心としたニューツーリズムや MICE 誘致への速やかな方策転換, 2. ソフトインフラに着目した戦略的なグラウンドデザインの構築, 3. 空港の地域拠点としての活用といった 3 つの項目について説明しました。

2-4-30 産学連携学会 平成 28 年度シンポジウム「オープン・イノベーションで切り拓く革新的新事業創出～今、大学の産学連携は How から What へ」

日時：平成 29 年 1 月 17 日(火)13:30～18:10

会場：東京医科歯科大学 湯島キャンパス M&D タワー 2 階 鈴木章夫記念講堂

主催：産学連携学会，東京医科歯科大学

【概要】

本格的な産学連携の促進が望まれる中、産学連携を成果につなげイノベーションの創出につなげていくためには、新たなプロジェクトを産学が一緒になって立ち上げる場所から連携していくことが必要です。このシンポジウムは、産学連携が本格化するためには何が必要か、本質的な課題が何かについて、産学官それぞれの立場から見解を示し本音の議論を展開することを目的に開催され、北村寿宏 教授が参加しました。

まず、旭化成株式会社 浅野敏雄 常任相談役から、「イノベーション創出—産学連携の強化—」と題して基調講演がなされました。その中で、イノベーションの必要性やイノベーションの創出における産学連携の必要性を述べられ、ミッション（あるいは夢）の共有、危機感の共有、ひるまずに実行することの重要性を指摘されました。

続いてパネルディスカッションが行われ、経済産業省 山田仁 氏、文部科学省 坂本修一 氏から、イノベーション創出や本格的な産学連携の促進に向けた政策、国の取り組みなどが紹介されました。

また、ソニー株式会社、P & G、デュポン・スペシャリティ・プロダクツ株式会社の 3 社から、企業としての産学連携やイノベーション創出の取り組み事例が紹介されました。

さらに、大阪大学、群馬大学、九州大学から、大学としての取り組み事例が紹介されました。

その後、日本と海外の大学の違い、What to Do のオープン・イノベーションなどについてパネル討論が行われました。

今後の産学連携においては、本格的な産学連携の推進やオープン・イノベーションを念頭に活動を推進していく必要があり、その対応も進めていかなければならないと感じました。



2-4-31 島根大学と松江市内陸工業団地企業との情報・意見交換会

日時：平成 29 年 1 月 25 日(水)16:00～17:00

会場：島根大学法学部棟 4 階法廷教室

【概要】

島根大学と松江市内陸工業団地企業との情報・意見交換会が、山陰法実務教育センターの呼びかけで開催され、松江市内陸工業団地内の企業から 14 名（食品業 6 名、鉄工機械業 5 名、その他の業種 3 名）と、島根県中小企業団体中央会と松江商工会議所からそれぞれ 1 名、そして本学から当センターの大庭卓也センター長と北村寿宏 教授を含む 9 名が出席しました。本学との産学連携に関する意見が交わされたほか、大学への要望が寄せられました。

2-4-32 松江市における特産農産物の生産とその活用について

日時：平成 29 年 1 月 30 日(月)13:00～16:05

会場：島根大学生物資源科学部 1 号館 2 階 203 会議室

【概要】

松江市で生産されている特産農産物とその活用事例を紹介する講演会が開催され、服部大輔 准教授が参加しました。

当日は、松江市産業観光部農政課の野津孝志 副主任（松江における特産農産物産地振興の取り組み）と、李白酒造有限会社の田中裕一郎 代表取締役（日本酒の輸出と製造技術の継承）、そして由志園アグリファーム株式会社の渡部卓也 取締役（八束町（大根島）農業の活性化のための 6 次産業化）からお話を伺いました。

2-4-33 文部科学省シンポジウム「未来創造対話 in 大阪 2017～産学連携の深化によるイノベーション促進に向けて～」

日時：平成 29 年 2 月 7 日(火)12:30～17:30

会場：コングレコンベンションセンター グランフロント大阪北館 B2 階 ホール A

主催：文部科学省

【概要】

政府において、産業界から見た大学・研究法人が産学連携機能を強化するうえでの課題とそれに対する処方箋をまとめた「産学連携による共同研究強化のためのガイドライン」が策定されたことに呼応してシンポジウムが開催されました。

これは、関西圏の大学と産業界の経営者層が「組織」対「組織」の新たな産学連携ステージへ向けた対話を行うことを目的としており、産官学それぞれのセクターから約 500 人が集まる中、本学からは当センターの北村寿宏 教授と、研究協力課 小村陽悦 ディレクターが参加しました。

まず、産業界を代表して、須藤 亮 氏（日本経済団体連合会未来産業・技術委員会企画部会長、産業競争力懇談会（COCN）実行委員会、株式会社東芝 技術シニアフェロー）が「産学官連携の進化によるイノベーション促進」と題して、政府から上山隆大 氏（内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員）が「研究開発の官民投資拡大に向けた制度改革、エビデンスベースの構築」と題して基調講演をされ、イノベーション創出における本格的な産学連携の必要性、重要性を指摘されました。

続いて、飯村亜紀子 氏（経済産業省）と坂本修一 氏（文部科学省）から、それぞれに策定されたガイドラインのポイントの紹介と、三重大学や名古屋大学、近畿大学など 6 機関から、本格的な産学連携の取り組みについて事例紹介がありました。

最後に、「関西発イノベーション促進に向けた産学官の対話」をテーマに、産業界、大学、行政の方々 8 名によるパネルディスカッションが行われました。

今後の産学連携においては、本格的な産学連携の推進やオープン・イノベーションを念頭に活動を推進していく必要があり、その対応も進めていかなければならないと感じました。

2-4-34 JST オープンイノベーションフェア WEST2017～関西発大学技術シーズ見本市～

日時：平成 29 年 2 月 7 日(火)10:00～17:30, 8 日(水)10:00～16:00

会場：コングレコンベンションセンター グランフロント大阪北館 B2 階

【概要】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）では、平成 28 年 11 月に関西圏における活動拠点をグランフロント大阪に設置し、近隣関係機関と連携しながら卓越した研究成果を新たな産業創造に結びつけるための活動をすすめています。

そこでこの度、関西の大学を中心に研究成果の紹介がブース展示で行われ、当センターから北村寿宏 教授が参加しました。

2-4-35 平成 28 年度大学-JST 意見交換会

日時：平成 29 年 2 月 8 日(水)13:00～16:00

会場：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター

【概要】

定例の大学と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）との意見交換会が開催され、当センターから服部大輔 准教授が出席しました。

今回は、JST の事業紹介と、三つのテーマ（産学連携による研究開発の推進、大学等発ベンチャー創出支援、大学における知的財産マネジメント）について意見交換が行われました。

2-4-36 平成 28 年度産学官連携リスクマネジメントモデル事業 利益相反マネジメント 報告会及び実務者研修会

日時：平成 29 年 2 月 8 日(水)13:00～17:30

会場：東京医科歯科大学 湯島キャンパス M&D タワー 2 階 鈴木章夫記念講堂

【概要】

近年の産学官連携の活発化・多様化により、教育研究活動を担う大学にとって、かつてない多様なリスクが生じつつあり、産学官連携リスクマネジメント体制の整備が喫緊の課題となっている事を受けて、大学および研究機関の利益相反担当者を対象として、利益相反マネジメントに関する事例への対応方法など、様々な情報供給をするとともに、全国の大学等へ普及する為の意見交換をすることを目的に、「利益相反マネジメント」に関する報告会および実務者研修会が開催され、北村寿宏 教授は報告会に参加しました。

まず、経済産業省 産業技術環境局 技術振興・大学連携推進課 大学連携推進室 飯村亜紀子 室長が「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン概要」と「大学における秘密情報の保護ハンドブック」の目的と概要について講演され、大学でリスクマネジメントが必要となる秘密情報について紹介されました。

次に、文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室 川口聖司 専門官が「リスクマネジメント強化の必要性」について講演され、大学で発生するリスクとそのマネジメントの必要性について説明されました。

そして、産学官連携リスクマネジメントモデル事業を進めている東京医科歯科大学から、産学連携研究センターの飯田香緒里 センター長が「医学系研究利益相反マネジメントの背景と現状」と題して、また、同センターの川澄みゆり 特任助教が「利益相反マネジメントツール（教材）の紹介」と題して、事業の報告をされました。

本学でも、産学連携に伴う様々なリスクが具体化しつつあり、リスクマネジメントの早急な強化が必要であると感じました。

2-4-37 本格的な産学官共同研究をすすめるための地域フォーラム（中国）

日時：平成 29 年 2 月 23 日（木）13:30～17:10

会場：広島大学東千田キャンパス 未来創生センター 4 階 講義室

【概要】

文部科学省と経済産業省では、「イノベーション促進産学官対話会議」において「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」を策定し、その内容や、政府による支援の取組について理解を求めるべく、フォーラムを開催されました。

当日は、産業界、大学、担当官庁による方針や実際の活動、今後の期待などが討議されました。また、「本格的な産学官共同研究による中国地域のイノベーション創出に向けて」をテーマとするシンポジウムでは、パネリスト 8 名の一人として、本学の秋重幸重 理事（企画・学術研究担当）・副学長が登壇しました。

当センターから楠田和身 客員教授が参加しました。

2-4-38 「やさしい医工連携」成果発表・拡大交流会～神々の國・出雲の地場企業と医療の縁結び～

日時：平成 29 年 2 月 25 日（土）13:00～16:30

会場：大社文化プレイスうらら館

【概要】

本学医学部と出雲市との共同開発事業である「やさしい医工連携」の成果をお知らせし、新たな課題に取り組む企業の参画や、企業間連携を推進するための交流会が開催され、当センターの中村守彦教授が、「神々の國・出雲で進む「医工連携」をテーマに講演をすると共に、シンポジウム「やさしい医工連携」を進める企業、大学、市それぞれの思い」ではコーディネーターを務めました。また、服部大輔 准教授も参加しました。

2-4-39 平成 28 年度しまだい COC・オールしまね COC⁺ 事業成果報告会

日時：平成 29 年 3 月 9 日（木）13:00～17:30

会場：島根大学 松江キャンパス 大学ホール

【概要】

平成 28 年度における、「しまだい COC」及び「オールしまね COC⁺」の事業成果報告会が開催され、当センターから服部大輔 准教授が参加しました。

当日は、第 1 部では「しまだい COC」の報告が、第 2 部では「オールしまね COC⁺」の報告と「若者の地域定着に向けた協働」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

2-4-40 国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議

日時：平成29年3月10日(金)13:30～17:00

会場：長崎大学 産学官連携戦略本部 共同研究支援部門 2階研修室

【概要】

全国の国立大学法人で産学連携に携わっている教員等が集まり、産学連携の課題の議論や意見交換を行う「国立大学法人共同研究センター西日本ブロック専任教員会議」が、長崎大学で開催され、北は新潟、富山から、南は熊本大学まで、全国各地の産学連携担当者18名が出席する中、当センターから北村寿宏 教授と小金民造 客員教授が出席しました。

各人の自己紹介を行った後、提案された三つの議題（共同研究の実施状況、企業との共同研究の金額が低すぎることで、大学発ベンチャー支援の手段）について議論が交わされました。

共同研究の実施状況では、北村寿宏 教授が、現在、科研費で調査・分析を進めている結果について報告し、地元企業との共同研究の促進に向けた活動などについて議論しました。

共同研究の金額については、各大学とも公表されたガイドラインのようなことはできにくいとの意見が多数出され、苦慮していることがわかりました。

大学発ベンチャーでは、利益相反などのマネジメントが十分に行われている大学は少なく、今後の課題であることが議論されました。

会議後は、情報交換会が行われ、議論の続きが活発に行われました。

2-4-41 産学金官情報交換会

場所：島根大学産学連携センター（松江地区）

【概要】

当センターでは、一年を通じて外部機関との情報交換会を行っており、今年度は8回（4/6, 5/11, 6/15, 9/14, 10/12, 11/9, 12/14, 3/7）行いました。

【参加機関】

<学外>

- ・松江工業高等専門学校 地域共同テクノセンター・松江テクノフォーラム事務局
- ・島根県立大学 地域連携推進センター
- ・株式会社山陰合同銀行 地域振興部
- ・島根県 商工労働部 産業振興課・雇用政策課
- ・公益財団法人しまね産業振興財団 新事業支援課
- ・まつえ産業支援センター

<学内>

- ・産学連携センター
- ・地域未来戦略センター
- ・企画・地域連携推進課

2-4-42 平成 28 年度新産業創出研究会 定例会議

場所：島根大学総合理工学部

【概要】

公益財団法人ちゅうごく産業創造センターの助成事業である、平成 28 年新産業創出研究会に採択された、本学総合理工学研究科 物質科学領域の池上崇久 准教授による「水溶性の共役サブフラロシアニン二量体を用いた二光子吸収材料の開発」の定例会議（第 1 回：6/10，第 2 回：11/16，第 3 回：3/7）が開催され、共同提案者である当センターの北村寿宏 教授が出席しました。

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 / 各種外部委員活動等

2-5 各種外部委員活動等

産学連携を行うために、あるいは、産学連携で得た知識や経験を社会に活かすために、センターの各教員が公的な委員会などの活動に協力しています。

平成 28 年度に協力した委員会活動等の一覧とその活動の一部を以下に紹介します。

氏名	連携機関	連携内容
大庭卓也 教授	松江市産業観光部まつえ産業支援センター	松江市ものづくり振興会議委員
		松江市地域産業活性化新製品・新技術開発支援事業補助金審査会委員
	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	評議員
	島根県商工会連合会	しまね地域資源産業活性化基金運営委員会委員
	島根県産業技術センター	研究課題外部評価委員
		島根先端電子技術研究拠点運営委員会
	特定非営利活動法人 21 世紀出雲産業支援センター	出雲産業フェア実行委員
	島根県商工労働部	島根県中小企業・小規模企業振興推進協議会委員
	松江工業高等専門学校	平成 28 年度松江工業高等専門学校外部評価委員会委員
一般社団法人島根県発明協会	第 19 回島根県学生児童発明くふう展表彰式授与者	
阿久戸敬治 教授	一般社団法人島根県発明協会	第 19 回島根県学生児童発明くふう展審査会審査委員
北村寿宏 教授	島根県商工会連合会	しまね地域資源産業活性化基金審査委員会委員
	国立研究開発法人科学技術振興機構	研究成果最適展開支援プログラム専門委員
		マッチングプランナープログラム専門委員
	特定非営利活動法人産学連携学会	監事
		総務委員
株式会社全国鉄骨評価機構	関西・中四国支部 事務局	
服部大輔 准教授	徳島県庁自治研修センター	講演講師
	島根県立図書館	島根県立図書館ビジネス支援サービス協議会参加者

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動/産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択

2-6. 産学連携センターコーディネートによる競争的資金採択

産学連携による研究・開発活動を促進するために、様々な公的な助成制度を活用しています。

平成 28 年度に、当センターのスタッフがコーディネートし、直接申請に係わり採択に至った競争的資金の一覧です。

2-6-1 公益財団法人ちゅうごく産業創造センター

※平成 28 年度新産業創出研究会

テーマ名	研究者代表者	共同提案者
水溶性の共役サブフラロシアンニ二量体を用いた二光子吸収材料の開発	総合理工学研究科 池上崇久 准教授	北村寿宏 教授

2-6-2 島根県

※平成 28 年度技術シーズ連携研究開発支援事業

研究課題	研究者	コーディネーター
粉末化エゴマ油の体内吸収性向上と健康増進・病態発症予防に対する有効性の検証	生物資源科学部 吉清恵介 助教	服部大輔 准教授
ゲノム編集を用いた GABA 強化米の実用開発とその県内産業への活用	生物資源科学部 赤間一仁 教授	北村寿宏 教授

※平成 28 年度技術シーズ育成支援事業

研究課題	研究者	コーディネーター
骨粗鬆患者専用接合部材の開発	医学部 今出真司 助教	中村守彦 教授
島根地域の生物資源に由来するポリフェノール類の健康機能の解析と新規の機能性食品の開発	生物資源科学部 横田一成 教授	服部大輔 准教授
紫外レーザーダイオードを用いた半導体薄膜の結晶化装置	総合理工学研究科 葉 文昌 先生	北村寿宏 教授
広帯域光源を用いた斜面・水面の実時間センシングシステムの適用性試験	総合理工学研究科 増田浩治 教授	北村寿宏 教授

2-7 広報活動

当センターでは、研究紹介や産学連携に関する情報提供を行うために、ホームページやメールマガジンの運用、研究者情報誌や研究シーズ集の発行など様々な広報活動を行っています。

平成 28 年度に行った主な広報活動を以下に紹介します。

2-7-1 島根大学研究シーズ集追加作成

研究成果を何に利用できそうかという視点で、産業界の方々に島根大学で行っている研究内容をわかりやすく紹介する目的で、平成 18 年度に島根大学研究シーズ集を作成しました。

今年度は 3 シーズ追加作成し、当センターのホームページにも掲載しました。

【アドレス <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/res-pr/seeds02/home.htm>】

発行月	研究者	研究シーズのテーマ
7 月	産学連携センター 中村守彦 教授	金属異物除去用の内視鏡マグネット鉗子
7 月	総合理工学研究科 葉 文昌 准教授	シェブロン型レーザービーム走査による Si 薄膜の局所単結晶化技術
7 月	総合理工学研究科 梶川靖友 教授	ガラス基板上的多接合太陽電池を目指した Ge(111)面上への GaAs 層形成方法

2-7-2 メール配信

当センターが主催する行事や関連イベント、研究情報など産学連携に関する様々な情報を、学内外に電子メールで配信しています。学外に向けては、「島根大学産学連携センターニュース」を登録者 722 名に（今年度末現在）配信しました。

※産学連携センター主催・共催・後援・関係事業等

配信日	配信先	題名
5/19 6/3, 24	センターnews(学外) 松江地区全教職員	島根大学・松江高専「学生による研究発表会&産学交流会」開催のご案内
6/22	センターnews(学外) 松江地区全教職員	「材料・ライフサイエンス分野 新技術説明会」開催のご案内
8/24	センターnews(学外)	「イノベーション・ジャパン 2016」出展のご案内
9/13	センターnews(学外)	MOT セミナー【基礎+演習】「顧客価値と地域シーズから展開する新商品・新事業開発手法」開催のご案内
10/31	センターnews(学外)	「出雲産業フェア 2016」開催のご案内
11/15 12/6	センターnews(学外)	MOT セミナー初級編「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」開催のご案内
11/28	センターnews(学外)	「アグリビジネス創出フェア 2016」出展のご案内
12/19	センターnews(学外)	MOT セミナー中級編【実例と演習】「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」開催のご案内

2 産学連携センター（松江地区）の産学連携活動 / 広報活動

2/3, 24 3/2	センターnews(学外) 松江地区全教職員	平成 28 年度島根大学知的財産セミナー「島根大学の知的財産活用による地域イノベーションへ向けて」開催のご案内
2/7, 8	センターnews(学外) 松江地区全教職員	『やさしい医工連携』成果発表・拡大交流会」開催のご案内

※関連機関主催等

配信日	配信先	題名
1/26	松江地区全教職員	「企業交流会」開催のご案内

※助成金情報

配信日	配信先	題名
10/7	松江地区全教職員	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター 平成 29 年度「新産業創出研究会」の募集について

※出展者募集等

配信日	配信先	題名
7/21	松江地区全教職員	「ビジネスマッチング商談・展示会 2016in 松江」への研究シーズエントリーについて
7/28	松江地区全教職員	マツダグループ向け「先進環境対応車に係る技術シーズ発信会」のご案内
8/10	松江地区全教職員	マツダグループ向け「先進環境対応車に係る技術シーズ発信会」開催日の変更について
8/22	松江地区全教職員	「アグリビジネス創出フェア 2016」の出展者募集について

※募集情報

配信日	配信先	題名
4/26	生物資源科学部教員 総合理工学研究科教員	「学生による研究発表会&産学交流会」の発表者の募集について

3 平成28年度科学技術相談（松江地区の担当分）

地域に開かれた大学の窓口として、大学の持つ専門知識や研究成果を地域に還元し、その発展に寄与するために、科学技術の相談等に無料で応じています。

平成28年度に当センター松江地区で対応した科学技術相談の件数は、下記のとおりです。

平成28年度の科学技術相談の件数：35件

【地域別】

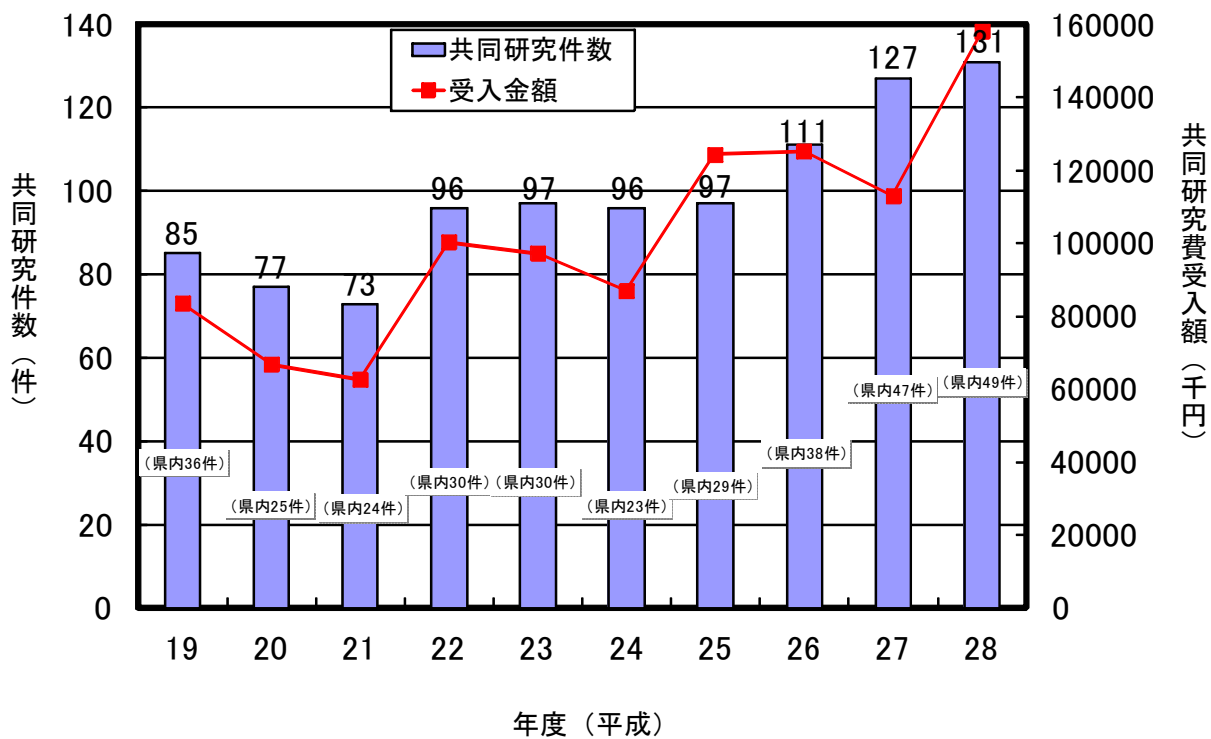
島根県内（東部 9件，西部 2件）	11件
島根県外	21件
不明	3件

【対応組織別】

法文学部	0件
教育学部	0件
総合理工学研究科	3件
生物資源科学部	1件
産学連携センター	24件
総合理工学研究科 産学連携センター	4件
生物資源科学部 産学連携センター	2件
その他	1件

4 平成28年度共同研究

平成28年度に実施された共同研究（131件）の件数と受入額を以下に紹介します。



5 知的財産（特許）

島根大学では、実用化が期待できる研究成果について、特許を出願し権利化を進めています。28年度の出願や権利化状況、これまでに特許公開された特許について、以下に紹介します。

【特許出願件数】

特許出願件数	平成 28 年度	累計
	26 件	350 件

【公開特許一覧（平成 29 年 3 月現在）】

	公開番号	発明の名称
1	特許公開 2017-019685	電気抵抗材料およびその製造方法
2	特許公開 2017-018575	点滴用サポータ
3	特許公開 2017-017292	結晶化方法、パターニング方法、および、薄膜トランジスタ作製方法
4	特許公開 2017-003340	ブリルアン散乱測定装置及びブリルアン散乱測定方法
5	特許公開 2017-003339	ブリルアン散乱測定装置及びブリルアン散乱測定方法
6	特許公開 2017-003338	モード結合比率分布測定方法及びモード結合比率分布測定装置
7	特許公開 2016-208862	養液栽培方法、養液栽培用の電気分解装置
8	特許公開 2016-198405	マグネット鉗子および内視鏡装置
9	特許公開 2016-194491	光学デバイスのインパルスレスポンス測定装置および測定方法
10	特許公開 2016-191143	リチウム抽出方法
11	特許公開 2016-145786	光学デバイスのインパルスレスポンス測定装置および測定方法
12	特許公開 2016-137217	共鳴ラマン分光法を利用した生体組織内好酸球の検出方法、組織内好酸球浸潤性疾患の検査方法、及び生体組織内好酸球の検出装置
13	特許公開 2016-123387	アブラナ科の野菜に含まれるスルフォラファンを増量する方法
14	特許公開 2016-119754	電力変換装置
15	特許公開 2016-119753	電力変換装置
16	特許公開 2016-119752	電力変換装置
17	特許公開 2016-103912	電力変換装置
18	特許公開 2016-60678	酸化亜鉛微粒子の製造方法、酸化亜鉛微粒子
19	特許公開 2015-210765	情報共有システム
20	特許公開 2015-209363	RE123結晶膜作成方法
21	特許公開 2015-189715	インフルエンザウイルスのRNA依存性RNAポリメラーゼのPB2サブユニットに対するモノクローナル抗体
22	特許公開 2015-183839	変速制御機能付き自動車
23	特許公開 2015-167158	マルチコアファイバ増幅器
24	特許公開 2015-134064	プログラミング装置、NC加工機および骨部材加工システム
25	特許公開 2015-133853	センサレスモータ装置
26	特許公開 2015-133852	センサレスモータ装置
27	特許公開 2015-119538	電力制御装置および電力供給システム

5 知的財産（特許）

28	特許公開 2015-116137	糸状菌に対する抗真菌薬
29	特許公開 2015-109814	β -アドレナリン作動性様オクトパミン受容体作用物質のスクリーニング方法
30	特許公開 2015-95994	電力変換装置
31	特許公開 2015-67462	六方晶チタン酸バリウム系誘電体材料製造方法
32	特許公開 2015-56416	n型熱電変換材料、熱電変換モジュール、n型熱電変換材料の製造方法
33	特許公開 2015-37385	サツマイモの栽培方法
34	特許公開 2015-36487	空洞充填によるトンネルの補修方法
35	特許公開 2015-36384	発光材料製造方法
36	特許公開 2014-219548	光増感色素ならびに該色素を含む金属酸化物半導体電極および色素増感太陽電池
37	特許公開 2015-022605	画像処理システム
38	特許公開 2015-020101	放射線遮蔽能を有するヨウ素捕集材料
39	特許公開 2014-219548	マルチコア光伝送システム、光増幅及び光増幅用部品
40	特許公開 2014-231499	抜け毛抑制剤
41	特許公開 2014-219548	暗号処理システム
42	特許公開 2014-217321	蕎麦様食品、及びその製造方法
43	特許公開 2014-211395	塗料乾燥に伴う溶剤の密度推定法
44	特許公開 2014-175508	Si膜形成方法
45	特許公開 2014-174654	核医学骨画像解析技術
46	特許公開 2014-169191	セラミックス複合材料
47	特許公開 2014-161256	野菜又は果物の栽培方法
48	特許公開 2014-133677	水溶性超常磁性ナノ粒子
49	特許公開 2014-116466	光ファイバ増幅器
50	特許公開 2014-096399	増幅用光ファイバ及び光増幅器
51	特許公開 2014-096398	増幅用光ファイバ及び光増幅器
52	特許公開 2014-093815	駆動回路、電力変換装置および電気機器
53	特許公開 2014-093586	ゲート駆動回路、インバータ回路、電力変換装置および電気機器
54	特許公開 2014-46295	ネオジム回収方法
55	特許公開 2014-41987	n+型Ge半導体層形成方法およびオーミック接触構造
56	特許公開 2014-39410	ゲートドライブ回路
57	特許公開 2014-36753	睡眠時下顎固定具
58	特許公開 2014-31348	希土類発光錯体および発光材料
59	特許公開 2013-212548	青果栽培方法
60	特許公開 2013-212548	発光物質
61	特許公開 2013-198211	DC-DCコンバータ
62	特許公開 2013-198210	双方向DC-DCコンバータ
63	特許公開 2013-177373	ブロモメチルシクロアルカン類の製造方法
64	特許公開 2013-175507	光電変換素子及びその製造方法
65	特許公開 2013-175506	光散乱膜及びその製造方法、太陽電池

5 知的財産（特許）

66	特許公開 2013-171422	3次元水中インタラクティブ装置
67	特許公開 2013-170302	A Z O成膜用ターゲットおよびその製造方法
68	特許公開 2013-168296	有機フォトカソードおよびその製造方法
69	特許公開 2013-158327	セシウムトランスポータおよびセシウム低吸収性イネ
70	特許公開 2013-152613	救急医療における情報通信ネットワークシステム
71	特許公開 2013-133250	シリカ殻からなるナノ中空粒子及びその製造方法
72	特許公開 2013-085373	省エネ走行機能付き自動車
73	特許公開 2013-30399	透明導電膜作成方法および透明導電膜素材
74	特許公開 2013-249	栄養バランス食提供用食器セット
75	特許公開 2012-246584	マタニティドクターコート
76	特開公開 2012-235017	熱電変換材料製造装置及び熱電変換材料製造方法
77	特開公開 2012-211960	物質相互作用をリアルタイムに可視化する技術
78	特開公開 2012-194507	学生能力分析システム
79	特開公開 2012-97240	モノアザキクフェニル
80	特開公開 2012-79537	照度分布算出プログラム
81	特開公開 2012-75670	カフ電極
82	特許公開 2012-001402	電気抵抗材料
83	特許公開 2011-254836	人工腐植土の製造方法及びその人工腐植土による緑化工法
84	特許公開 2011-252786	細胞内脂肪球イメージング方法、イメージング用蛍光剤およびイメージング蛍光剤製造方法
85	特許公開 2011-252198	透明導電薄膜用ターゲット材およびその製造方法
86	特許公開 2011-239545	D C - D C コンバータ
87	特許公開 2011-193820	乳酸菌、乳酸菌選抜方法、および、発酵食品
88	特許公開 2011-193790	家畜管理方法
89	特許公開 2011-188958	シェーグレン症候群及びドライマウスの治療器並びにドライアイの治療器
90	特許公開 2011-171456	半導体装置、および半導体装置の製造方法
91	特許公開 2011-135797	果実又は野菜の養液栽培方法
92	特許公開 2011-126985	チタン酸バリウム系蛍光物質
93	特許公開 2011-055958	発情期診断システム、発情期診断方法、および発情期診断プログラム
94	特許公開 2011-055733	土壌改質方法および炭素固定方法
95	特許公開 2011-055580	共振型電力変換装置
96	特許公開 2011-050498	内視鏡
97	特許公開 2011-006266	B a T i ₂ O ₅ 系強誘電性セラミックス製造方法
98	特許公開 2011-000086	集草装置
99	特許公開 2010-282530	2次元バーコード並びにその読取システム及び生成システム
100	特許公開 2010-246760	光照射装置及び毛の処理方法
101	特許公開 2010-234497	チップソー用のチップ
102	特許公開 2010-215450	チタン酸バリウム系結晶の製造方法
103	特許公開 2010-209602	堤体表層部の被覆構造
104	特許公開 2010-183860	常温型アスパラギン酸脱水素酵素およびL-アスパラギン酸製造方法
105	特許公開 2010-150188	排便促進用組成物
106	特許公開 2010-148398	人工腐植土の製造方法

5 知的財産（特許）

107	特許公開 2010-117180	接地不良検知器
108	特許公開 2010-96685	片手持ち搾乳器
109	特許公開 2010-057743	骨部位用ネジ
110	特許公開 2010-040724	熱電変換材料
111	特許公開 2010-013309	アナターゼ型酸化チタンおよび透明導電薄膜
112	特許公開 2010-004704	DC-DCコンバータ
113	特許公開 2010-004703	スナバ回路付きDC-DCコンバータ
114	特許公開 2009-262037	排水処理装置および吸着材の再生方法
115	特許公開 2009-261136	双方向DC-DCコンバータ
116	特許公開 2009-261135	電流制御型DC-DCコンバータ
117	特許公開 2009-260321	n型亜鉛アンチモン系化合物熱電半導体
118	特許公開 2009-202125	汚水処理水の脱色方法及び脱色用部材の再生方法
119	特許公開 2009-172265	多点電極
120	特許公開 2009-147098	半導体多結晶薄膜及び半導体装置
121	特許公開 2009-141457	可逆圧縮用符号化システム及び情報媒体
122	特許公開 2009-76619	耐熱衝撃性電磁波シールド材およびその製造方法
123	特許公開 2009-065942	ブルーベリーの挿し木用培養土及び栽培方法
124	特許公開 2009-059235	ユーザ認証システム
125	特許公開 2009-046356	酸化亜鉛ナノクリスタルおよびナノコンポジット
126	特許公開 2009-027991	走行型刈取機
127	特許公開 2009-011969	貝分別方法
128	特許公開 2009-011517	膝蓋骨測定装置
129	特許公開 2008-297998	風力発電装置
130	特許公開 2008-285339	セラミックス膜、発光素子及びセラミックス膜の製造方法
131	特許公開 2008-246144	毛成長調節方法及びその装置
132	特許公開 2008-244387	酸化亜鉛系発光素子
133	特許公開 2008-241551	汎用的高感度ELISA法およびその試薬キット
134	特許公開 2008-239456	機能性チタン酸ストロンチウム結晶およびその製造方法
135	特許公開 2008-233051	電気泳動用バッファ及び電気泳動法
136	特許公開 2008-224420	光ファイバ照明装置
137	特許公開 2008-222591	表面がアルキル基またはアリール基で修飾された金属リン酸塩ナノ体、その製造方法およびその用途
138	特許公開 2008-211984	土壌管理方法
139	特許公開 2008-185363	水中環境汚染物質の簡易定量方法及び簡易定量測定具
140	特許公開 2008-184794	段差緩衝構造
141	特許公開 2008-184420	新規有害生物防除剤
142	特許公開 2008-100907	吸着用木炭の製造方法
143	特許公開 2008-029811	毛成長調節方法及びその装置
144	特許公開 2008-001962	耐酸化材料及び耐酸化材料の製造方法
145	特許公開 2008-000129	形質転換イネ、血圧降下をもたらす米、および、イネ用ベクター
146	特許公開 2007-326768	KFを含有するチタン酸バリウム系圧電体またはその製造方法
147	特許公開 2007-307090	内視鏡、内視鏡アタッチメント、および、内視鏡装置
148	特許公開 2007-245327	切削用チップおよび切削工具、並びに切削用チップの作製方法

5 知的財産（特許）

149	特許公開 2007-236350	脳卒中を発症しにくいSHRSP系ラット
150	特許公開 2007-229271	生体組織接着性医療器具
151	特許公開 2007-229270	生体組織接着装置
152	特許公開 2007-216192	ヘドロ処理方法
153	特許公開 2007-195571	骨接合用骨製ネジ
154	特許公開 2007-156857	対話型インターフェース方式および対話型インターフェース用プログラム
155	特許公開 2007-153736	安定化ジルコニア繊維製造方法, および, 安定化ジルコニア繊維
156	特許公開 2007-118152	ブローチ加工装置
157	特許公開 2007-117099	グルタミン酸脱炭酸酵素, グルタミン酸脱酸素酵素をコードするDNA, グルタミン酸脱炭酸酵素が発現可能な形態で導入された微生物, グルタミン酸脱炭酸酵素の製造方法, および, トランスジェニック植物
158	特許公開 2007-054256	被処理液のウィルス失活方法
159	特許公開 2006-345784	濾過食性二枚貝の飼育方法, 濾過食性二枚貝の飼育システム, 濾過食性二枚貝を用いた汽水の浄化方法, および, 濾過食性二枚貝を用いた汽水の浄化システム
160	特許公開 2006-334704	マイクロリングシステムの制御方法
161	特許公開 2006-334703	マイクロミル
162	特許公開 2006-308433	土壌水移動速度導出方法および土壌水移動速度測定装置
163	特許公開 2006-303427	熱電半導体材料の製造方法
164	特許公開 2006-254795	アスパラギン酸脱水素酵素, アラニン脱水素酵素, L-アスパラギン酸製造方法, および, D-リンゴ酸製造方法
165	特許公開 2006-239825	立旋盤
166	特許公開 2006-231476	チャック
167	特許公開 2006-225442	蛍光性ジアザアントラセン類および蛍光性ジアザアントラセン類合成方法
168	特許公開 2006-212019	植物を用いたユビキノン-10の製造方法
169	特許公開 2006-205096	塩類を含む土の除塩方法
170	特許公開 2006-175130	骨接合術用具
171	特許公開 2006-147866	炭化珪素薄膜の成膜方法
172	特許公開 2006-126083	即時型小麦アレルギーの診断方法
173	特許公開 2006-094803	T-RFLPをもちいた微生物群集構造の解析方法
174	特許公開 2006-076866	シリカ多孔体結晶の製造方法
175	特許公開 2006-075815	脱窒脱リン用成型体及び汚水・排水の脱窒脱リン処理方法
176	特許公開 2006-064413	比熱および熱伝導率の測定方法。
177	特許公開 2006-061063	脱色活性を有するペルオキシターゼ, 当該ペルオキシターゼをコードするDNA, 当該ペルオキシターゼが発現可能な形態で導入された微生物, および, 脱色剤の製造方法
178	特許公開 2006-028086	クエルセチン3- α -(6- α -マロニル)グルコシドを有効成分として含む医薬組成物およびクエルセチンマロニルグルコシドを含有する食品
179	特許公開 2006-025867	手術用縫合糸
180	特許公開 2005-306632	ゼオライトの合成方法
181	特許公開 2005-176748	後作植物判定方法および植物の連続栽培方法
182	特許公開 2005-060145	酸化亜鉛超微粒子および酸化亜鉛超微粒子の製造方法
183	特許公開 2005-000326	トレッドミルおよびトレッドミルの使用方法。

5 知的財産（特許）

184	特許公開 2005-000091	根菜類の水耕栽培法
185	特許公開 2004-290069	グルタミン酸脱炭酸酵素, グルタミン酸脱酸素酵素をコードするDNA, グルタミン酸脱炭酸酵素が発現可能な形態で導入された微生物, グルタミン酸脱炭酸酵素の製造方法, および, トランスジェニック植物
186	特許公開 2004-285127	炭製造方法および炭
187	特許公開 2004-276228	酸素富化による雰囲気制御切削方法及び切削工具
188	特許公開 2004-267140	水耕栽培方法
189	特許公開 2004-264902	セッション開始方法, アイコン画像作成装置, セッション開始プログラムおよびアイコン画像作成プログラム
190	特許公開 2004-231500	チタン酸バリウム結晶, コンデンサ, 光スイッチおよびFRAM
191	特許公開 2004-112882	突入電流抑制方法
192	特許公開 2004-089097	グルタミン酸脱水素酵素, グルタミン酸脱水素酵素をコードするDNA, グルタミン酸脱水素酵素が発現可能な形態で導入された微生物, および, グルタミン酸脱水素酵素の製造方法
193	特許公開 2004-040054	酸化亜鉛系薄膜の成長方法

[J-STORE, 開放特許情報データベース登録件数]

	平成 28 年度登録	累計
J-STORE	4 件	101 件
開放特許情報データベース	3 件	93 件

6 平成28年度産学連携センターに関係した記事

平成28年度に報道機関に取り上げられた産学連携センターに関係した記事を、以下に紹介します。

日付	誌名	見出し	内容
4/14	山陰中央新報	西条柿の長期保存法考案	当センターが産学連携を進めている生物資源科学部 板村裕之教授の研究について
4/27	山陰中央新報	台湾の有識者ら水環境保全学ぶ	増永二之 部門長が関係した連携活動について
5/19	日刊工業新聞	地方創生と地方大学における産学連携の役割と課題	北村寿宏 教授
7/3	山陰中央新報	デジタルホログラフィ技術実用化	当センターが産学連携を進めている総合理工学部 横田正幸 教授の研究について
8/5	山陰中央新報	島大開発低カリウムメロン使用ホテル一畑が会席料理	当センターが産学連携を進めている生物資源科学部 浅尾俊樹教授の研究について
8/13	山陰中央新報	低カリウム会席「いける」	当センターが産学連携を進めている生物資源科学部 浅尾俊樹教授の研究について
8/31	日本経済新聞	低カリウムメロン—島根大	当センターが産学連携を進めている生物資源科学部 浅尾俊樹教授の研究について
9/22	山陰中央新報	医療や観光注日本格生産へ	当センターが産学連携を進めている生物資源科学部 浅尾俊樹教授の研究について
11/25	山陰中央新報	西条柿 海外販路拡大を	当センターが産学連携を進めている生物資源科学部 板村裕之教授らの研究について
1/14	山陰中央新報	人型ロボでリハビリ支援	当センターが産学連携を進めている総合理工学研究科 廣富哲也准教授の研究について
2/8	山陰中央新報	図書館 ビジネス支援充実	服部大輔 准教授が関係した連携活動について
3/15	産学官連携ジャーナル	デジタルホログラフィで塗装の乾燥・硬化を可視化する	当センターが産学連携を進めている総合理工学研究科 横田正幸教授の研究について

産学連携センター地域産業共同研究部門は平成28年現在で下記の実験装置を常置機器として設置しております。

[原子間力／磁気力顕微鏡]

物質の表面および磁気構造を高分解能で観察する装置です。大気中観察タイプで観測できる試料サイズは100φ×10mmの大きさまで。また、金属、半導体、有機物など対象を選ばず観測できます。観察最大範囲は100×100μmです。



[走査型電子顕微鏡]

物質の表面構造を高分解能で観察する装置です。観察有効倍率約5万倍。現在までのところ、産学連携センター地域産業共同研究部門は表面を金などでコーティングするための蒸着装置やスパッタ装置を持っておりませんので、絶縁物の観察は、あらかじめコーティングをご自分でお願いします。



島根大学産学連携センター(松江地区)

平成28年度年報 通巻第21号

2018年12月 発行

編集 島根大学産学連携センター(松江地区)

〒690-0816 松江市北陵町2番地 TEL 0852-60-2290 FAX 0852-60-2395

E-mail crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp URL <http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>